

第1 青森県すこやか福祉事業団事務局

1 概況

平成29年4月からの社会福祉法改正に伴い、社会福祉法人を取り巻く環境は大きく変化したが、平成30年度も引き続きこれらの環境に確実に対応し、また今後の安定経営に向けて事業のあり方を議論し、見直しを図ってきた。

福祉業界の人材不足も引き続き当事業団の課題となっており、採用試験の回数を増やす等の人材の積極的な確保だけではなく、職員研修による職員の質の向上、労働契約法改正による無期雇用制度の確立など、在職している職員の離職防止の取り組みも行った。

会計処理上においては、より精度の高い財務諸表を作成するため、今年度末より法人全体で次年度支給される夏季賞与のうち積算額の6分の4を賞与引当金として計上した。

(1) 事務局総務課

① 経営安定化の推進

平成30年度当初予算段階では、法人全体の収支差額として△437千円の見込みであり、引き続き非常に厳しい経営が予想された。

年度内では一部増収になった所属もあるものの、しらかば寮の職員数減による加算の減算、安生園・すこやか苑の利用者数減に伴う減収、あおばの移転による経費増等の厳しい背景があり、平成30年度決算前の補正予算段階では法人全体の収支差額が1,826千円しか見込むことができなかった。

「青森県すこやか福祉事業団中期計画」に基づき、今後の施設整備のために必要な積立額(25,000千円)を毎年度積み立てていく試算であったが、今年度については前述の理由により収益が少なく、目標の積立をすることができなかった。今後改めて人員配置等による加算を精査し、各事業所の経営状況を把握したうえで、目標金額の積み立てを実施できるように経営改善に取り組むものである。

② 労働環境改善について

給料表改正の議論は引き続き行っており、“努力したものがきちんと評価されて報われる職務制度や給与制度”の整備を進める方向性を法人内経営会議において方向性を決定した。引き続き経営会議での内容精査、外部有識者との会議、職員への周知・理解を踏まえた上で、令和2年度の改正給料表実施に向けて取り組む。

非正規職員の「同一労働・同一賃金」については、これまで条件付き支給だった臨時職員の通勤手当を、平成30年度から正規職員と同様の条件で支給した。

平成30年度から適用となった一部の条件を満たす対象者の「無期雇用化」についても、法に基づいて実施し「準職員」として位置付け、就業規則を整えたうえで給与等の待遇改善も行った。

③ 広報活動の強化

既存のホームページについては、各所属とも更新頻度を上げて新しい情報を掲載してきた。また、幅広い人材確保を目的に、ホームページだけではなく若年者に多く目に触れるSNSを活用することを進めてきたが、現時点では有識者に内容を確認している段階であり、継続して協議し情報発信を進めていく。

(2) 事務局キャリア支援課

① 人材確保

福祉業界の人材不足は厳しい状況であり、人材確保については引き続き積極的に行ってきた。企業説明会については、学校主催などの企業説明会へ17回参加し、1回当たりのブース訪問者数は平均8.4人であった。OB、OGも同席し、学生に親近感のある雰囲気の中で、体験談や法人内容の行事等についての様子を直接学生に伝え、PR活動を行った。

また、より幅広く人材を確保することを目的に東北各県の大学のうち、青森県出身者が在籍している学校を訪問し当事業団の周知を図った。

平成30年度は一般公募試験を4回実施し、受験者数41人中20人が合格した(うち2人は内部職員が一般公募試験を受験し合格)。

内部登用試験では10人が受験し、4人が正職員へ登用となった。

■一般公募試験の実施状況

区分	応募者数	合格者数	備考
一次募集	15人(3)	8人(2)	5月19日、5月26日実施
二次募集	17人	9人	9月29日、10月13日実施
三次募集	1人	0人	12月1日実施
四次募集	5人	3人	3月17日、3月24日実施
看護師募集	3人	2人	12月8日、1月22日実施

※()は、事業団職員(臨時職員等)で一般職員受験者の数

■内部登用試験の実施状況

区分	応募者数	合格者数	備考
内部登用	10人	4人	10月17日、10月24日実施

② 人材育成

「青森県介護サービス事業所認証評価制度」及び「青森県保育・障害福祉サービス事業所認証制度」への認証に向けた取組みとして整備したキャリアパスや、階層別研修、課題別研修の実施等をとおして、職員の資質向上を図るとともに職責や役割の認識を深めた。特に給料表3級の職にあるものは、従来の中級職員から分離して「上級職員」として位置づけ、リーダーシップ等マネジメントスキルの向上を図った。

新規採用者の育成では、内定期間のうちから研修を実施したほか、着任後はエルダー制度による育成を実施し、面談及び評価のフィードバックを行い、成長と離職防止を図った。

平成30年度は、職員個別の育成計画策定に基づく研修を計画的に実施した(実績等については、別紙「階層別、課題別、専門分野別研修等実績一覧表」参照)。

③ 職場環境改善

一般事業主行動計画に基づく「女性が管理職として活躍できる雇用環境の整備」への取り組みの一環として、女性管理職全員が講師となり、家庭や子育てと仕事の両立等の体験談を話す座談会を実施した。今後も継続して実施することとし、女性が働きやすい職場づくりを進めていく。

また、人材定着を目的に、職員一人ひとりが主体的なキャリア形成をしていける仕組みとして、主に新採用職員や育休明けの職員を対象に、キャリアコンサルタントによる「キャリア面談」を実施した。新年度は、「セルフ・キャリアドック制度」として就業規則に定め、育成と定着に取り組むこととした。

2 職員の状況

(平成31年3月31日現在)

	事務局長	キャリア支援 推進監	総務課長	事務員		計
				総務課	キャリア支援課	
男	1		1	3		5
女		1		8	1	10
計	1	1	1	11	1	15

※理事長、専務理事、県民福祉プラザ夜間事務補助員を除く。

3 事業の実施状況

項目	実施時期	内容
1 評議員会	H30年6月20日 H30年10月5日 H31年3月25日	事業団定款第9条～14条の規定に基づき、次のとおり開催した。 ① 第3回評議員会 ・ 場所 県民福祉プラザ3階「多目的室3A」 ・ 出席評議員、理事 評議員7人、理事6人 ・ 報告事項 報告第1号 居宅介護支援センターあんじょうにおける臨時介護支援専門員の解雇問題について 報告第2号 八甲学園関連不審文書に関する進捗状況について 報告第3号 平成29年度事業報告 ・ 議決事項 議案第1号 平成29年度貸借対照表、収支計算書及び財産目録（案） 議案第2号 理事及び監事の報酬等の額及び支給基準（案） 議案第3号 理事及び監事の選任（案） ② 第4回評議員会 ・ 場所 県民福祉プラザ3階「多目的室3A」 ・ 出席評議員、理事 評議員5人、理事6人 ・ 報告事項 報告第1号 八甲学園における職員の負傷事案について ③ 第5回評議員会 ・ 場所 県民福祉プラザ3階「多目的室3A」 ・ 出席評議員、理事 評議員7人、理事6人 ・ 報告事項 報告第1号 八甲学園における児童支援について ・ 議決事項 議案第1号 定款の一部改正（案）
2 理事会		事業団定款第23条～27条の規定に基づき次のとおり開催した。

	H30年5月31日	<p>① 第7回理事会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 場所 県民福祉プラザ3階「多目的室3A」 ・ 出席理事、監事 理事6人、監事2人 ・ 議決事項 <p>議案第1号 平成29年度補正予算（理事長専決分）（案）</p> <p>議案第2号 平成29年度事業報告（案）</p> <p>議案第3号 平成29年度決算書（案）</p> <p>議案第4号 平成30年度補正予算書（案）</p> <p>議案第5号 定款細則の一部改正（案）</p> <p>議案第6号 理事の辞任（案）</p> <p>議案第7号 理事の選任（案）</p> <p>議案第8号 第3回評議員会の招集事項（案）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 報告事項 <p>報告第1号 平成29年度苦情等受付・解決状況</p> <p>報告第2号 居宅介護支援センターあんじょうにおける臨時介護支援専門員の解雇問題の解決結果について</p> <p>報告第3号 八甲学園関連不審文書に関する進捗状況について</p>
	H30年6月20日	<p>② 第8回理事会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 場所 県民福祉プラザ3階「多目的室3A」 ・ 出席理事、監事 理事6人、監事2人 ・ 議決事項 <p>議案第1号 理事長の選任について（案）</p> <p>議案第2号 業務執行理事の選任について（案）</p>
	H30年9月18日	<p>③ 第9回理事会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 場所 県民福祉プラザ3階「多目的室3A」 ・ 出席理事、監事 理事6人、監事2人 ・ 議決事項 <p>議案第1号 平成30年度第2次補正予算（案）</p> <p>議案第2号 ライフサポートあおば（デイサービスセンターあおば）移転（案）</p> <p>議案第3号 第4回評議員会の招集事項（案）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 報告事項

	<p>H30年11月7日</p> <p>H31年3月13日</p>	<p>報告第1号 八甲学園職員負傷事案について</p> <p>④ 第10回理事会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 場所 県民福祉プラザ3階「多目的室3A」 ・ 出席理事、監事 理事6人、監事2人 ・ 議決事項 議案第1号 平成30年度第3次補正予算（案） <p>⑤ 第11回理事会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 場所 県民福祉プラザ3階「多目的室3A」 ・ 出席理事、監事 理事6人、監事2人 ・ 議決事項 議案第1号 平成30年度退職給与積立金取崩（案） 議案第2号 平成30年度補正予算（案） 議案第3号 平成31年度事業計画（案） 議案第4号 平成31年度当初予算（案） 議案第5号 平成31年度安生園における理事長専決事項 議案第6号 定款の一部改正（案） 議案第7号 経理規程の一部改正（案） 議案第8号 職員就業規則等の一部改正（案） 議案第9号 給与規程の一部改正（案） 議案第10号 評議員選任・解任委員の委嘱（案） 議案第11号 施設長等人事（案） 議案第12号 第5回評議員会の招集事項（案） 議案第13号 経営改革の基本方針（案） ・ 報告事項 報告第1号 平成30年度監査結果について 報告第2号 平成30年度福祉サービス質の評価実績報告について 報告第3号 八甲学園における児童支援について
<p>3 監査等</p>	<p>H30年4月27日</p> <p>H30年5月9～10日</p> <p>H30年10月30日</p> <p>H30年11月1日</p> <p>H30年11月2日</p>	<p>① 青森県すこやか福祉事業団監事事前監査</p> <p>② 青森県すこやか福祉事業団監事監査</p> <p>③ 青森県すこやか福祉事業団内部監査</p> <p>監査対象：事務局・プラザ管理室・長寿社会振興センター・発達障害者支援センター</p> <p>監査対象：八甲学園</p> <p>監査対象：すこやか苑</p>

	<p>H30年11月12日 H30年11月14日 H30年11月15日 H30年11月19日 H30年11月20日</p> <p>H30年10月19日 H31年1月30日 H31年1月31日</p> <p>H30年8月29日 H30年9月12日 H30年9月14日 H30年10月19日 H30年12月21日</p>	<p>監査対象：なつどまり 監査対象：ライフサポートセンターあおば 監査対象：安生園 監査対象：就労サポートセンターはくちょう 監査対象：就労サポートセンターさつき</p> <p>④ 青森市指導監査課による指導監査 監査対象：八甲学園 監査対象：すこやか苑 監査対象：安生園</p> <p>⑤ 青森県県民局監査指導課による指導監査 監査対象：八甲学園 監査対象：しらかば寮 監査対象：さつき寮</p> <p>⑥ 青森県監査委員事務局による指導監査 監査対象：事務局（プラザ） 監査対象：事務局（プラザ）</p>
4 会議等		
(1) 所属長会議	H30年4月 ～H31年3月	<p>各所属と意思疎通を図り、既存事業の課題等の検証や新規事業の模索等について検討し、事業団の安定経営の推進に努めた。</p> <p>・開催回数 計7回</p>
(2) 経営委員会	H30年11月 ～H31年2月	<p>人事評価実施要綱に関する検討及び非正規職員の待遇改善や無期雇用制度に向けた取組を検討した。</p> <p>・開催回数 計2回</p>
(3) 総務担当者会議	H30年7月 ～H31年1月	<p>庶務、経理事務の適正化に向けた施策の確認、各種制度改正やそれに関する事務取扱に係る情報共有を行った。</p> <p>・開催回数 計3回</p>
(4) 栄養士会議	H30年10月 ～H30年12月	<p>各所属栄養士の協力体制の構築、資質向上及び所属での現状課題の検討や情報共有を行った。</p> <p>・開催回数 計3回</p>
(5) 環境整備委員会	都度	<p>各施設の所有地の環境整備やしいたけ栽培用の原木の伐採、稲作支援等を実施した。</p>

(6)人材確保・ 育成委員会	H30年10月 ～H31年2月	事業団の人材育成計画についての検討や、キャリアパス要件に関連する各種制度に関する内容の理解に努めた。また、県内他法人の取組み事例についても視察してきた。 ・開催回数 計2回
(7)職場環境 改善委員会	H30年10月 ～H31年2月	労働者が働きやすい職場づくりのために、環境整備のために必要な取り組みについて検討した。 また、女性管理職登用に関する意識調査を実施し、一般事業主行動計画に基づく女性が活躍できる職場づくりについて検討した。 ・開催回数 計2回
(8)監査委員会	H30年7月～ H30年12月	法人内の内部牽制の強化と、法定監査受検に対応できる人材の育成を目的に開催され、委員会形式のほか、サービス種別(障害福祉、高齢者福祉)や地域(青森市、平内町)、分野(処遇、経理、運営管理)ごとに「部会」形式でも実施し、職員が参加しやすいスタイルで開催した。 ・開催回数 計2回
5 職員の福利 厚生		非正規職員も含め(一部を除く)全職員を対象としてソウェルクラブへ加入し、福利厚生の充実を図った。 また法人認定のクラブに対する助成金支援制度を創設した。
6 その他 (1)北海道・東北 ブロック事業団 連絡協議会	H30年7月12日 ～13日 H30年7月19日 ～20日	北海道・東北ブロック事業団事務局長会議 ・場 所 山形市「山形国際ホテル」 ・出席者 1人 第1回北海道・東北ブロック事業団連絡協議会 ・場 所 秋田市「秋田ビューホテル」 ・出席者 2人
(2)全事協事業	H31年2月14日 ～15日 H30年10月18日 ～19日	第2回北海道・東北ブロック事業団連絡協議会 ・場 所 札幌市「ライフオート札幌」 ・出席者 2人 全国社会福祉事業団大会 ・場 所 大分市「レンブラントホテル大分」 ・出席者 1人

4 研修の参加状況

項目	実施時期	内 容
7 職員の研修 (1)北海道・東北 ブロック研修 職員研修 I	H30年11月8日 ～9日	意識改革を促進する研修 既成概念にとらわれない自由な発想で業務に取り組むための意識改革の促進を図る研修 ・場 所 青森市「ラ・プラス青い森」 ・出席者 開催担当県につき事務局全員参加
	(2)分野別、専門 別の研修について	H30年7月4日 福祉事業支援セミナー ・場 所 八戸市「きざん八戸」 ・出席者 2人 H30年7月26日 管理職レベルアップセミナー ・場 所 青森市「アピオあおもり」 ・出席者 1人 H30年7月27日 職場研修担当者研修会 ～30日 ・場 所 神奈川県「ロフォス湘南」 ・出席者 1人 H30年8月3日 全事協社会福祉法人会計に関する研修 ・場 所 東京都「全国都市会館」 ・出席者 1人 H30年8月22日 人事労務・就業規則セミナー ・場 所 弘前市「弘前文化会館」 ・出席者 1人 H30年11月15日 事務系業務の生産性向上セミナー ～16日 ・場 所 東京都「日本経営協会」 ・出席者 1人 H30年11月19日 全事協労務管理研修 ・場 所 東京都「全国都市会館」 ・出席者 1人 H30年12月3日 社会福祉法人会計・経営セミナー ・場 所 岩手県盛岡市「アイーナ」 ・出席者 1人 H30年12月3日 事件・事故の危機管理と実践的マスコミ対応 ～4日 ・場 所 東京都「日本経営協会」 ・出席者 1人 H31年1月23日 社会福祉法人人事・労務管理講座 ～24日 ・場 所 東京都「TOC有明コンベンションホール」 ・出席者 1人 H31年3月2日 福祉サービス第三者評価調査者継続研修会 ・場 所 青森市「県民福祉プラザ」 ・出席者 1人 H30年6月30日 ICDSキャリアコンサルタント養成講座 ～7月1日 外全12回 ・場 所 弘前市「株I・M・S」 ・出席者 1人

(3)階層別研修、 課題別研修、専門 分野別研修等		詳細については別紙「階層別、課題別、専門分野別研 修等実績一覧表」(P11)のとおり。
---------------------------------	--	--

(別紙)

階層別、課題別、専門分野別研修等実績一覧表

月	日付	時間	内容	人数	講師
4月	6日	14:00~16:00	ハラスメント予防研修(管理職編)	17名	青森産業保健総合支援センター
	13日	14:00~16:00	ハラスメント予防研修(窓口実務者)	14名	
	9日	17:00~18:00	看護技術基礎研修(はくちょう)	7名	なつどまり鹿内看護師
	10日	18:00~19:00	看護具術基礎研修(あおば)	7名	
	13日	17:30~18:30	看護観医術基礎研修(サボセンさつき)	9名	
	10日	8:45~12:00	新任職員研修	16名	理事長、常務理事、施設長
	18日	18:00~19:00	交通安全研修(前期)	23名	青森東部自動車学校
	24日	10:00~11:00	交通安全研修(前期)	14名	
	20日	9:30~12:00	エルダー研修	16名	㈱セミナー東北
		13:30~16:00	現任管理職研修	8名	㈱セミナー東北
23日	9:30~12:00	管理職研修	11名	㈱セミナー東北	
	13:30~16:00	人事評価者研修	16名	㈱セミナー東北	
5月	19日	9:30~11:30	リスクマネジメント研修	14名	理事長
7月	10日	14:00~15:00	福祉車輛操作講習(すこやか苑)	13名	(有)境谷自動車
		16:00~17:00	福祉車輛操作講習(安生園)	21名	
	11日	15:00~16:00	福祉車輛操作講習(なつどまり)	12名	
	11日	8:45~12:00	新任職員研修	10名	理事長、事務局長、施設長
8月	29日	9:00~15:00	初級職員研修	14名	リコージャパン㈱
	30日	9:00~15:00		21名	さつき寮中野課長
10月	31日	13:30~16:50	新任職員研修	6名	理事長、専務理事、事務局長、施設長
11月	9日	10:30~12:00	利用者支援理解促進研修	31名	当事者
	16日	14:00~16:00	メンタルヘルス研修	21名	青森産業保健総合支援センター
	21日	10:00~12:00	女性管理職養成研修	26名	専務理事他女性管理職
		14:00~16:00	女性管理職養成研修	22名	
	30日	14:00~16:00	虐待防止研修	25名	青森大学教授船木昭夫氏
12月	4日	18:00~19:00	交通安全研修(後期)	12名	㈱ムジコ・クリエイト
	7日	10:00~11:00	交通安全研修(後期)	9名	
1月	23日	13:30~16:10	新任職員研修	8名	理事長、専務理事、事務局長、施設長
2月	15日	9:00~17:15	内定式、内定者研修	24名	理事長他、㈱セミナー東北
	1	8:45~16:00	内定者施設見学	24名	

5 県民福祉プラザの利用状況

No	研修室名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
1	県民ホール	利用件数(件)	12	13	28	21	17	20	16	15	15	6	13	17	193
		利用者数(人)	1,203	1,913	4,873	3,515	2,548	2,379	3,435	2,755	2,425	693	2,005	1,995	29,739
2	大研修室	利用件数(件)	17	26	30	30	25	29	27	27	27	12	21	9	280
		利用者数(人)	760	1,800	1,588	1,345	1,432	1,213	1,669	1,361	1,106	555	1,183	680	14,692
3	中研修室	利用件数(件)	18	22	35	33	27	30	28	23	32	13	20	16	297
		利用者数(人)	763	892	1,585	1,341	1,126	1,076	1,286	1,017	1,154	349	751	730	12,070
4	小研修室	利用件数(件)	33	30	31	30	28	33	33	23	31	26	26	24	348
		利用者数(人)	387	385	482	478	473	407	415	288	410	297	290	248	4,560
5	多目的室4A	利用件数(件)	27	28	37	30	25	33	27	23	30	18	24	25	327
		利用者数(人)	615	623	968	777	620	839	507	481	621	423	616	564	7,654
6	多目的室4B	利用件数(件)	22	20	27	22	19	26	21	19	22	19	21	18	256
		利用者数(人)	505	438	781	688	473	659	456	454	543	407	550	449	6,403
7	講師控室1	利用件数(件)	8	6	18	9	12	15	13	10	10	3	3	6	113
		利用者数(人)	38	26	57	36	37	49	46	35	28	12	11	28	403
8	講師控室2	利用件数(件)	9	8	21	16	16	20	24	19	10	3	8	1	155
		利用者数(人)	22	26	56	44	41	41	49	48	20	3	22	2	374
9	多目的室3B	利用件数(件)	23	19	21	21	21	21	17	32	26	21	18	16	256
		利用者数(人)	479	368	333	410	385	332	370	522	472	416	356	295	4,738
10	多目的室3C	利用件数(件)	27	28	30	32	21	26	25	33	29	24	29	30	334
		利用者数(人)	206	201	231	240	166	205	189	236	213	174	230	219	2,510
11	多目的室2A	利用件数(件)	18	19	30	27	21	21	25	27	26	14	15	18	261
		利用者数(人)	524	610	1,039	881	702	755	783	866	780	544	575	654	8,713
12	多目的室2B	利用件数(件)	20	21	22	24	24	28	33	30	29	17	23	24	295
		利用者数(人)	281	288	264	295	304	397	477	414	454	248	280	391	4,093
13	調理実習室	利用件数(件)	13	13	14	8	9	11	10	15	10	7	7	9	126
		利用者数(人)	118	104	169	141	95	130	150	220	129	81	87	86	1,510
合 計		利用件数(件)	247	253	344	303	265	313	299	296	297	183	228	213	3,241
		利用者数(人)	5,901	7,674	12,426	10,191	8,402	8,482	9,832	8,697	8,355	4,202	6,956	6,341	97,459

【参 考】

年 度	利用件数	利用人数
平成29年度	3,350	109,550
平成30年度	3,241	97,459
増 減	-109	-12,091

第2 障害児入所施設八甲学園

1 概況

児童福祉法及び障害者総合支援法に基づき、利用者一人ひとりが人間としての尊厳を守られながら、心豊かで健やかに成長し、地域社会の一員として自己の能力や特性に応じた暮らしができるよう、多様なサービスを提供した。

(1) 知的障害児八甲学園

入所支援の18歳以上の入所利用者2人に対しては、併設する生活介護事業所を利用しながら地域生活を目指した支援を行い、円滑かつ適切に障害福祉サービスに移行できるよう相談支援事業所を中心に連携支援を行っている。

また、強度行動障害がある障害児に対しては、障害特性に応じた専門的な支援を行い、行動障害の軽減に取り組むと同時に、職員の養成のため2人の職員が強度行動障害支援者研修を受講した。

ほかに、虐待防止及び権利擁護の推進啓発、利用者一人ひとりの特性やニーズに即した個別支援のために周知体制を整えた。

また、地域生活に向けた社会性の向上及び社会参加の促進をし、生活・支援環境の整備と向上及び衛生面・感染症対策の徹底、家庭、学校、医療及び関係機関との協力・連携を行い、地域のニーズの把握に努めた。

平成30年4月1日の在籍は24人（措置14人、契約10人）、新規入所児童は6月に1人（契約）、2月に1人（措置）、退所者は11月2人（措置1人、契約1人）、3月4人（措置3人、契約1人）であり、平成31年3月31日の在籍は21人（措置11人、契約10人）であった。

(2) 多機能型障害児通所支援事業

多機能型障害児通所支援事業（デイサービスセンターはっこう）では、事業所の実情や個々の子どもの特性に応じて創意工夫を図り、支援の質の向上に努めた。

また、当該事業で実施している親子療育は、未就学児と就学児の発達につまづきを感じる子どもとその家族に対し実施し、家庭での療育の促進を図った。

(3) 地域支援課

地域支援課は、これまで就労継続支援B型事業（定員25人）・生活介護事業（定員10人）の2事業を多機能型事業所「はっこう」として支援を行ってきたが、今年度は、それぞれを単独型として独立させた。

地域支援第一課は、生活介護事業所はっこう（定員20人）と共同生活援助事業所サンハウス（定員52人）を統括した。地域支援第二課は、就労継続支援B型事業所はっこう（定員20人）と相談支援事業所あおばを統括した。

① 地域支援第一課

ア 生活介護事業所はっこう

生活介護事業所はっこうは、主に障害支援区分5以上の障害の重い方、発達障害の方を対象に利用する方の障害特性に応じ、本人にとってわかりやすい

環境設定を行なうと共に日常生活スキル向上のための機能訓練・余暇・運動・軽作業・レクリエーション活動等を実施した。

イ 共同生活援助事業所サンハウス

共同生活援助事業所サンハウスは、法人内のグループホームのあり方検討会を開催し、なつどまりスワンハイムの規模縮小に伴い、利用者を八甲学園サンハウスで受入れしていくこととした。さらに、世話人業務の見直しや各グループホーム間の食事の質の平準化を図るため、就労継続支援B型事業所はっこうと連携し、こだわりの店『つぼみ』の喫食事業を利用し、栄養士による栄養管理された食事の提供を行う体制を整えた。

② 地域支援第二課

ア 就労継続支援B型事業所

就労継続支援B型事業所はっこうは、リサイクル班、ショップ班、請負班の3班体制で利用者への作業支援を行なった。ショップ班によるこだわりの店『つぼみ』の喫食事業は当初手作り弁当の製造販売を継続していたが、平成31年1月より栄養士による栄養管理されたランチメニューの提供に変更した。

イ 相談支援事業所あおば

相談支援事業所あおばは、より利用者や保護者との相談や計画作成に対応できるように、適正な利用件数の維持に努めてきた。

2 職員の状況

(平成31年3月31日現在)

区 分	総務課	こども支援課		地域支援 第一課		地域支援 第二課		計
		入所 支援	デイ はっこう	生活 介護	GH	就労 B型	相談 あお ば	
園 長	1							1
課 長	1	1			1	1		4
主任支援員				1				1
副主任支援員・栄養士		3	1			1	1	6
事務員・支援員	3	13	5	10	6	13	1	51
看護師	1			2				3
運 転 員	1							1
世 話 人					16			16
嘱託医等	5							5
専任当直員	3							3
計	15	17	6	13	23	15	2	91

I 施設入所支援（指定知的障害児施設）

1 重点事項の取組状況

（1）虐待防止及び権利擁護の推進啓発

法人内、八甲学園内、外部の虐待防止及び権利擁護の研修を受講し、職員間で推進啓発し、学園単位で取り組んだ。

（2）利用者一人一人の特性やニーズに即した個別支援の充実

八甲学園で整理しているアセスメントシートを用いて入所児童一人一人の特性やニーズの把握に努め、第二養護学校や、横内中学校、児童相談所と連携しながら個別支援を計画的に進めた。

（3）強度行動障害児への専門的な支援及び職員の養成

職員は強度行動障害支援者養成研修を受講し専門的な支援を導入するとともに、発達障害者支援センターや自閉症支援研究会等の研修に参加し、職員の技術向上に努めた。

（4）地域生活に向けた社会性の向上及び社会参加の促進

入所児童それぞれの趣味や興味関心を機会とした社会体験学習を通じて、市内各所に計画的に外出し、児童の社会性の向上を図った。

また各種学校の社会参加を行うに当たり密な連携を行った。

（5）在宅児童に向けた社会性の向上及び社会参加の促進

放課後等デイサービス事業や親子療育及び短期入所事業にて在宅児童の支援を計画的に行った。発達に合わせたアセスメントと児童の強みを生かした、視覚に訴える支援等を保護者、関係機関とも連携し展開した。

（6）生活・支援環境の整備と向上及び衛生面・感染症対策の徹底

各種対応マニュアルを徹底して管理し、委員会による衛生面や感染症対策の周知と看護師を始めとする職員の日頃の準備を行った。その結果、感染症被害の拡大を防ぐことができた。

（7）家庭、学校、医療及び関係機関との協力・連携

家庭への報告、連絡、相談はケース担当職員を窓口にして行い、家庭とのつながりのために児童発達支援管理責任者を始めとする職員で児童相談所へも報告、連絡、相談を行った。学校とは常日頃より密に連携をしながら支援にあたった。

また、看護師を窓口にして児童への医療の提供支援を行った。

（8）地域のニーズの把握及び利用者の獲得

児童相談所、学校、他関係機関との連携によりニーズの把握を行い、児童相談所からの相談や八甲学園からの各種情報発信により利用開始につながった。

2 利用児童等の状況

- | | |
|--------------------|-----|
| （1）定員 | 30人 |
| （2）平成29年度末現在利用児童等数 | 24人 |
| （3）平成30年度内退所児童等数 | 6人 |

(4) 平成30年度内新規入所児童等数 2人

(5) 平成30年度末現在利用児童等数 20人

(6) 年齢別利用児童等数 (平成31年3月31日現在)

年齢	男	女	計	年齢	男	女	計
5				14	1	1	2
6	1		1	15	2	1	3
7				16	3		3
8				17	3		3
9	1	1	2	18		1	1
10				19	1		1
11				20歳以上	1		1
12	1		1		16	4	20
13	2		2				

(7) 第二養護学校、横内中学校学級への就学状況 (平成31年3月31日現在)

	小学部						中学部			高等部			合計
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	1	2	3	
二養男			1			1	1	1	2	3	3		12
二様女			1						1			1	3
横中男							1						1
横中女								1					1
計			2			1	2	2	3	3	3	1	17

(8) 事業実施状況

項目	実施時期 または回数	内容
(1) 生活支援	随時	① 社会体験学習 買物・食事・公共施設等 (延21回)
	4月20日 7月20日 8月2日 8月16日 12月15日 1月4日	② 行事 ・花見/学園園庭 (17人) ・学園なつまつり ・ねぶた観覧 ・夏休み外出/浅虫水族館 ・クリスマス会 ・新年会
	4月期 7～8月期 12～1月期 3月期	③ 家庭実習 ・春季家庭実習 (5人) ・夏季家庭実習 (8人) ・冬季家庭実習 (7人) ・春季家庭実習 (5人)

(2) 学卒児支援	年間	① 園外活動：歩行訓練・作業活動 ② 園内活動：身辺自立・清掃
(3) 就労支援	随時	① 学校の実習に協力 実習先訪問、金銭管理指導
(4) 強度行動障害 特別処遇事業	1回/月 2回/月/1人	・スタッフ会議 ・対象児4人にプレイセラピーを実施
(5) 健康管理	随時 24回 2回 12回 3回 1回 1回 1回	① 通院 ② 精神科嘱託医の検診 ③ 内科嘱託医の検診 ④ 身長体重測定 ⑤ フッ素塗布 ⑥ 眼科検診 ⑦ 歯科検診 ⑧ 定期健康診断
(6) 防災訓練	12回/年	① 避難訓練（火災・地震想定） ② 地域防災懇談会（横内市民センター） ③ 総合避難訓練（前期80人） （地域防災協力隊30人） ④ 総合避難訓練（後期70人） ⑤ 非常通報訓練（春） ⑥ 非常通報訓練（秋）
(7) 研修	随時	① 職場内研修・研究発表 ② 法人内研修 ③ 法人外県内研修 ④ 法人外県外研修
(8) 広報活動	3回/年	① 学園だより ② ホームページ ③ リーフレット ④ 市町村訪問
(9) ボランティア	随時	① 八甲学園なつまつり
(10) 実習受け入れ	随時	専門学校1、短大2、大学4、計7校 実数18人 延数271人

II 短期入所（指定短期入所事業）

1 利用児童等の状況（平成31年3月31日）

- (1) 利用契約者数 13人
(2) 延利用児童数 134人

Ⅲ 多機能型障害児通所事業デイサービスはっこう

1 利用児童等の状況（平成31年3月31日）

（1）放課後等デイサービス

- ① 定員（児童数） 10人
- ② 利用契約者数 33人（親子指導事業契約者含む）
- ③ 延利用児童数 2,612人（親子指導事業契約者含む）

（2）親子指導事業（児童発達支援事業）

- ① 定員（児童数） 5組
- ② 利用契約者数 7組
- ③ 延利用児童数 60組

（3）親子指導事業（放課後等デイサービス）

- ① 定員（児童数） 5組
- ② 利用契約者数 7組
- ③ 延利用児童数 29組

Ⅳ 生活介護事業はっこう

1 概要

主に障害支援区分5以上の障害の重い方・発達障害の方を対象に、日常生活スキル向上を目的とした機能訓練や身辺自立支援、コミュニケーション支援・運動・軽作業・レクリエーション活動等を実施した。

障害特性に合わせてグループを編成し、グループごとに支援プログラムを立て、利用者一人ひとりの身体機能や行動特性に合わせた環境を設定し、利用者本人が達成感と成功体験を積み重ね、個人の強みを活かして活動ができるような手立てを用いた支援を行なった。

毎月、創作活動・調理活動・音楽活動・ダンス・ゲーム等のレクリエーション活動や外出を実施し、グループごとの忘年会、慰労会を企画した。レクリエーション活動や外出活動を充実させることで、楽しさの共有と余暇の充実を図った。また、地域行事や地域活動に取り組み社会参加の機会を提供した。

軽作業は、法人内からの事務作業の請負や古紙等のリサイクルの作業を行い、回収や運搬作業を通し、事業所外の方々との交流を図った。

2 事業実施状況

（1）利用者の状況

- ① 定員 20人
- ② 契約者数 17人（平成31年3月31日現在）

③ 各月契約者数及び延べ利用人数

定員 20	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
契約者数	15	15	15	15	15	15	15	18	18	18	17	17
開所日数	19	21	22	21	21	19	22	21	19	18	20	19
延べ 利用人数	230	279	288	274	271	236	291	305	275	261	282	273

(2) レクリエーション活動（回数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
創作		2	4		1	1	3	3	3	3	2	1
調理		1	2	5	6	2	1	2	2	4	2	1
音楽・ ダンス	1		2	2	2	2	5	5	3	3	4	7
ゲーム	1	1	2	2	1	2	2	2	2	2	2	4

(3) 外出・外部行事（忘年会・慰労会含む）

月	回数	外出内容・外出先
4月	1	合浦公園
5月	2	おやつ買物・ファミリーマート
6月	2	おやつ買物・ピクニック
7月	3	県立美術館・浅虫水族館・八甲学園なつまつり
8月	4	おやつ買物・八甲田ロープウェイ・昭和大仏・障害者スポーツ大会
9月	4	おやつ買物・鶴の舞橋・動物愛護センター・障害者スポーツ大会
10月	3	おやつ買物・リンゴ狩り・八甲田ロープウェイ
11月	3	おやつ買物・三内丸山遺跡・新町散策
12月	6	おやつ買物・動物愛護センター・かねさ味噌工場見学・育成会クリスマス会・寧々や（忘年会）
1月	4	おやつ買物・初詣・カラオケ・昭和大仏
2月	4	おやつ買物・ボウリング・水族館・ねむのき冬祭り
3月	4	おやつ外出・カラオケ・ピソリーノ（慰労会）・焼肉いわや

(4) 職員研修関係

法人内の研修を始め、県内外の各種研修等に職員を派遣し、支援スキルの向上と維持に努めた。

(5) 広報関係

パンフレットを作成し、関係機関及び団体等に配布して利用の促進に努めた。

V 指定共同生活援助事業所サンハウス(共同生活援助事業)

1 概要

利用者が地域で自立した生活を送るための拠点とし、利用者のニーズを的確に把握し、豊かな生活を送れるようアセスメント及び個別支援計画の様式を見直し、新たな様式にて計画作成を行った。

法人内のグループホームのあり方検討会が開催され、なつどまりスワンハイムの縮小及び、世話人の業務見直しが検討された。その結果、今年度はなつどまりスワンハイムから2人の利用者を受け入れ、今後も順次受け入れしていくこととなった。

世話人の業務見直しと各グループホーム間の食事の質の平準化を図り、こだわりの店『つぼみ』の喫食事業を利用する体制に向け準備を進めてきた。2月にはシミュレーションを行い、3月末には利用を開始した。

2 事業実施状況

(1) グループホームの設置状況 (平成31年3月31日現在)

人 称 (地 区)	設置年月日	定 員
①サンハウス(緑)	平成5年4月1日	6
②第二サンハウス(蛍沢)	平成6年4月1日	5
③第三サンハウス(新城)	平成8年4月1日	5
④第五サンハウス(幸畑)	平成25年12月1日	5
⑤旭ハウス(大野)	平成21年4月1日	5
⑥うとうハイム(古館)	平成13年10月1日	5
⑦第二うとうハイム(筒井)	平成22年4月1日	5
⑧おくのハウス(奥野)	平成25年12月1日	6
⑨紅葉ハウス(新城)	平成24年10月1日	5
⑩第二紅葉ハウス(新城)	平成25年11月1日	5
合 計		52

(2) 利用者の状況 (平成31年3月31日現在)

区 分	人 数
定員	52
平成30年度当初利用者数	50(男37・女13)
平成30年度内の利用終了者数	2(男1・女1)
平成30年度内の利用開始者数	2(男2)
平成30年度末現在の利用者数	50(男38・女12)

(3) 行事等

区 分	内 容	地域行事
4月	はっぴーの会幹事会	
5月		

6月	避難訓練 はっぴーの会ボウリング大会	
7月	はっぴーの会レク外出（わさおツアー）	
8月		北蛭沢町会ねぶた運行
9月	あおもりホット音楽祭	
10月	はっぴーの会一泊旅行（仙台）	
11月		
12月	避難訓練	
1月	はっぴーの会新年会	
2月		
3月		

※「はっぴーの会」とは利用者の親睦組織である。

（４）職員研修関係

法人内、八甲学園内での研修会の他、あおもりグループホーム連絡協議会等の各種研修会に職員及び世話人が参加し、支援技術の向上と情報共有を図った。

（５）広報関係

パンフレットを作成し、関係機関及び団体等に配布して事業所のPRに努めた。

VI 就労継続支援B型事業はっこう

1 概要

一般就労が困難な方々に対して生産活動の場を提供し、ニーズに即した支援計画に基づいて就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な作業支援を実施した。作業班及び作業内容は昨年度同様にリサイクル班、ショップ班、請負班の3班体制のもと、他班への協力体制を取ることで様々な作業体験を行えるよう支援した。

また、一人ひとりの強みを伸ばし、通所し続けたいと思い、作業意欲を持って働くことができる環境を整備することを目的に、県立保健大学より講師を招き、就労継続支援B型事業のあり方について研修会を計3回開催した。職員一人ひとりが事業所のビジョンを描き理想とする支援や運営方法について話し合い、取り組めるものから実践し、利用者が働く喜びを実感出来る事業所作りに努めた。

地域との関わりとして関係機関等との連携を強化し、共生・共助の地域づくりを目指すと共に、利用者の社会参加の促進と選択性のある余暇活動の充実を図った。

2 事業実施状況

（１）作業班

① リサイクル班

- ・民間事業所及び合子沢町会、北蛭沢町会への回収を行い、主たる収入源であるアルミ缶の回収量が減らないよう努めた。
- ・選別等の作業だけでなく、作業場の清掃等維持管理に重点を置いた支援を行なった。

② 請負班

- ・班内を清掃部門、菜果部門、外部受注部門の3部門に分けて作業を行なった。
- ・清掃部門は八甲学園及び安生園の清掃を受け持ち、毎日の園内清掃に従事した。安生園については、事業再編のため30年度で終了となった。
- ・菜果部門は、ハウスでのイチゴ栽培、畑での白菜、ニンジン、ピーマン、枝豆、さつま芋等の栽培を行なった。
- ・外部受注部門は、青森市パークメンテから受注した5ヶ所（公園管理：平和公園、浜館公園、奥野中央公園、浜田中央公園、野木和公園）の花植え、水撒き、除草作業や、県民福祉プラザ植栽管理と雪囲い、市内10ヶ所のグループホームの除雪等を行なった。

③ ショップ班（県民福祉プラザ2F こだわりの店『つぼみ』）

- ・共同受注窓口体制事業で県内の福祉施設で作られた製品の販売及び各イベント販売の他、喫食事業（12月までは手作り弁当の製造販売、1月からはランチメニューの提供）を行なった。
- ・平成31年度からはグループホームへの食事提供を行うこととし、準備を進めた。2月にシミュレーションを行い、3月末に開始となった。

(2) 利用者の状況 (平成31年3月31日現在)

区 分	人 数
定員	20
平成30年度開始時利用者数	23(男17・女6)
平成30年度終了時利用者数	24(男18・女6)

(3) 各班の売り上げ状況 (単位：円)

作業班	売り上げ
リサイクル班	4,337,460
請負班	4,419,702
ショップ班	6,400,594
計	15,157,756

(4) 工賃支給状況 (単位：円)

区 分	金 額
工賃（1人当たり月平均）	10,638
一時金（1人当たり年平均）	27,963
支給合計（1人当たり年平均）	13,108

(5) 行事等

	レクリエーション	その他（地域交流等）
4月	事業所説明会	
5月	カラオケ大会	横内町会清掃ボランティア
6月	自然散策	
7月	八甲学園夏まつり	
8月		
9月	温泉浴・ミニ運動会	
10月		
11月		農福連携マルシェ
12月	忘年会	しめ縄作り
1月	新年会	
2月	水族館見学	
3月	慰労会	

(6) 職員研修関係

法人内研修、学園内での勉強会の他、県内外の各種研修等に職員を派遣し支援スキルの向上に努めた。

(7) 広報関係

パンフレットを作成し、関係機関及び団体等に配布して事業所のPRに努めた。

VII 相談支援事業あおば

1 概況

基本相談（支援障害者等の福祉に関する全般の問題につき、障害者等からの相談に応じ、必要な情報（障害福祉サービス等）の提供及び助言）及び指定特定相談支援・障害児相談支援（障害者や障害児等が障害福祉サービスを利用する前に、サービス等利用計画を作成し、一定期間ごとにモニタリングを行う等の支援）を実施した。

2 利用状況

（平成31年3月31日現在）

人 称（事業人）	契約件数	サービス等 利用計画作成	モニタリング
(1) 指定特定相談支援事業	169件	128件	182件
(2) 障害児相談支援事業	67件	65件	75件

3 職員研修関係

(1) 青森市相談支援事業所連絡会議（主催：青森市）に、行政及び他相談支援事業所との連携を図ることと業務に必要な情報収集を目的に参加した。

期 日	場 所
4月17日	青森市役所 駅前庁舎
5月17日	油川市民センター
6月29日	青森県総合社会教育センター
7月19日	西部市民センター
8月24日	しあわせプラザ
9月27日	しあわせプラザ
10月26日	戸山市民センター
11月22日	油川市民センター
12月20日	青森県立図書館
1月17日	青森市役所 柳川庁舎
2月21日	青森市役所 柳川庁舎
3月20日	しあわせプラザ

(2) 法人内研修や県内の各種研修等に職員を派遣し、相談援助技術のスキルの向上に繋げた。

第3 養護老人ホーム安生園

1 概況

安生園の運営にあたっては、「関係法令」及び「当事業団の経営理念、職員倫理綱領」を遵守し、利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立った支援にあたるようミーティングや諸会議等で周知を図り支援に努めてきた。

利用者が自立した日常生活を営むことができるよう介護予防体制を整えるとともに、要支援または要介護状態の利用者支援については、併設の「ヘルパーステーションあんじょう」及び「居宅介護支援センターあんじょう」と連携しながら利用者の生活支援を推進してきた。

安生園では、施設の安定的な運営を確保するため、青森市内にある県・市営住宅、地域包括支援センター等への広報活動を積極的に実施するなど、広報活動に力を入れ、利用者獲得に努め一定の効果が見られた。

また、隣接する「特別養護老人ホームすこやか苑」との災害時等の協力体制を組織するなど連携を図り、利用者の安全確保等に努めた。

(1) 養護老人ホーム安生園

平成30年度は、青森市から13人の入所及び10人の退所があった。退所者の内訳は死亡3人、施設替え5人、長期入院1人、家庭復帰1人となっている。

また、利用者の高齢化(平均年齢80.9歳、80歳以上57人)により、介護を必要とする利用者は、要支援1、2が16人、要介護1～3が56人の計72人となっている。また、認知症、病弱者、精神疾患などにより共同生活の難しい方などの入所により、従来の見守り支援に留まらず、きめ細かな専門的な支援が必要となっている。更に、虐待、触法高齢者など、ニーズの多様化と複雑化が顕著となっている。

近年は歩行不安定な利用者が目立ち、転倒防止のための歩行器やシルバーカーの利用が増えている。平成30年度は、利用者の転倒によるヒヤリ・ハットや事故報告が38件発生しており、転倒は大きな事故に繋がることから、利用者及び職員への注意喚起を徹底するなど転倒事故防止に努めてきた。また、病弱者の医療面においても十分配慮しながら利用者の身体機能の維持に努めてきた。

一方、利用者獲得のため定期的なPR活動を実施しているが、行政機関による措置控えが顕著に表れるようになり、自治体の理解の促進が今後の課題である。

(2) ヘルパーステーションあんじょう

当事業所が置かれている青森市は、訪問介護・介護予防訪問介護事業所が多数存在し顧客獲得の激戦区となっており、各事業所とも顧客獲得に様々な取り組みを行っている。当事業所では、福祉有償運送事業を行う事業所が少ないところに目を付け、平成26年度から福祉有償運送事業を開始し、総合的なサービスの提供を行うことで顧客件数が年々増加し、事業展開上の強みとなっている。

今年度末の契約者数は、訪問介護67人、介護予防5人となっているが、収入は

前年度比で1,407千円の減収となった。この背景には平成30年度施行された法改正で、同一建物等居住サービス提供の報酬見直しがあり、10%減算から15%減算となったことと、職員の欠員が生じてヘルパーを確保が困難であったことが要因である。特に人員確保については、当事業所に限らず福祉業界全体の課題でもある。

(3) 居宅介護支援センターあんじょう

平成30年度は、地域包括支援センターや関係機関等へ訪問し、居宅あんじょうのPR活動に努めたところ、新規紹介者数の増加に繋がった。

また、利用者のニーズに対応する際に、他事業所との連携に努め、良好な関係性を築くことができた。

職員配置においては、主任介護支援専門員を含む介護支援専門員4人体制の特定事業所加算Ⅱの体制が整ったところであり、実務経験の浅い介護支援専門員の質の向上に重点を置いた。

前年度と比べ、利用者延べ人数が17人の減少となり、居宅介護支援費が763千円の減、認定調査費が163千円の増、介護予防支援費が92千円の増、合計508千円の減収となった。この背景には、利用者の介護度軽度化に伴い、単価の高い要介護利用者が減少し、単価の低い介護予防利用者が増加したことが要因になっている。収入増を図るためには、要介護者の新規利用者の増、特に在宅者の開拓が課題である。

2 重点事項の取組状況

(1) 利用者の権利擁護の推進及び虐待防止

園内研修委員会が企画した外部講師による権利擁護及び虐待防止研修会を開催し、職員全員が受講したほか、法人主催の虐待防止研修後には、毎月の全体会議等において繰り返し伝達を行い、職員への周知を図った。

また、座学・グループワークでの虐待防止研修を実施し、意識向上を図った。

(2) 利用者支援の強化

① 生きがい活動の促進のため、園内外の行事の見直しを進めた。

今年度新に企画した7日日ねぶた観覧では、杖やシルバーカーを利用する方に配慮した観覧場所を手配し実施したところ、20の方が参加し大好評であった。また、利用者の要望をもとに、日帰り旅行や買い物外出を企画し、余暇支援に努めた。

② 身体機能及び自立した生活の維持と保健衛生の向上においては、年2回の基本健診の他、歯科検診3回、歯科衛生士会による口腔衛生指導を4回実施し、口腔衛生の啓発に努めた。

③ リスクマネジメントの強化においては、毎月委員会を開催し、事故の原因を究明するとともに、対応策などを検討し、ベッド柵の設置や手すりの設置など利用者の状態に合わせた介護用具の導入を進める支援にあたった。

(3) 家族との連携強化

家族との関係が希薄な利用者の連携強化のため、家族への近況報告等に努めた。

(4) 安定的な経営基盤の確保

安定的な経営基盤の確保のため、地域包括支援センターへ出向いての広報活動や、安生園の利用案内チラシを市内全域の公営住宅を中心に配布するなど利用者の獲得に努めた。今年度は見学者が39件あり、このうち青森市より13人の入所利用に繋がった。

(5) 地域交流の促進

地域交流促進のため、近隣町会の公園整備に参加したり、老人クラブとのレクリエーション交流、社会貢献学会との炊き出し訓練、吉本興業芸人によるお笑いライブ交流、幼稚園児や各種サークルによる交流のほか、青森第二養護学校や青森市内の中学生の職場実習、シニアカレッジの実習などを積極的に受け入れ、交流の機会を多く設けた。

3 職員の状況

(平成31年3月31日現在)

所 属	養護老人ホーム	訪問介護等支援事業所	居宅介護支援事業所	計
職員数 (人)	22	12	4	38

I 養護老人ホーム安生園

1 概 況

養護老人ホーム安生園は、昭和26年の開設以来、老人福祉法の基本理念に基づき、利用者は長年にわたり社会の発展に寄与してきた方々として敬愛し、生きがいを持ち健全で安らかな生活を保障するとともに、利用者の権利擁護と意思決定を尊重しながら個々の支援計画に基づいた施設運営に努めてきた。

ここ数年は、歩行不安定な方など、要介護や認知症により入所する利用者が目立ち、既存の施設での対応に苦慮する面もあり、併設する介護保険事業所等と連携した利用者支援や施設移行を図ってきた。

また、入所に至る経緯も多様化し、虐待被害者、触法高齢者、精神病院からの受入先となっているほか、地域で生活することが困難な知的障害者や精神障害者等の受入先として地域のセーフティネットとしての役割を果たしている。

地域交流については、新たに実習を受け入れるとともに、町会の一員として近隣公園の花壇整備に参加した。また、当園の地域防災協力隊に地域住民の方々に参画していただくなど、積極的に地域と関わってきた。

更には、初の試みで社会貢献学会青森支部の方々と、非常災害時に備え炊き出し訓練を実施し、検討会議を重ねマニュアル作成を行った。

生きがい支援策としては、できる限り希望を叶えるべく聞き取り調査や自治会代表者会議で意見を求めて、各行事に要望等を反映させてきた。

2 職員の状況

(平成31年3月31日現在)

		園長	推進監	課長代理	主任	副主任	支援員等	専任 当直員	その他	計
総務課	男	1						3	医師1	5
	女			総務課長代理 1		栄養士 1	看護師 2		医師1	5
高齢者 支援課	男		主任生活相談員 1	支援課長代理 1	1		1			4
	女				2	2	4	3		8
計		1	1	2	3	3	7	3	2	22

3 入退所の状況

定員	100人
平成29年度末現在の利用者数	94人
平成30年度内の退所者数	10人
平成30年度内の入所者数	13人
平成30年度末現在の利用者数	97人

4 事業の実施状況

(1) 行事等

人 称	実施時期等	参加者数	備 考
各寮懇談会	月1回	延413人	
音楽療法	月1~2回	延257人	
3B体操	月1回	延189人	
自治会代表者会議	年4回	延34人	
コーヒーサロン	年2回	延64人	
ビデオ上映	月2回	延316人	
出張販売(6業者)	週1~2回		食料品・日用雑貨、果物、パン、クリーニング等
利用者との集い	4/2	44人	
自治会総会	4/2	44人	
輪投げ大会	6/27	56人	地域交流行事
地域交流懇談会	6/16	12団体	
納涼夏祭り	7/25	69人	地域交流行事
盆墓参	8/6	10人	三内霊園
敬老会	9/19	92人	

市内遊覧	11/19	11人	
	11/22	12人	
七日日ねぶた観覧	8/7	16人	
ミニ運動会	10/19	35人	
リフレッシュ日帰り旅行	9/26	19人	浅虫温泉
文化祭	11/3	79人	
年忘れお楽しみ会	12/20	94人	
餅つき会	1/9	52人	
節分豆撒き	2/1	35人	
物故者慰霊祭	3/7	42人	
利用者との集い	3/29	44人	

(2) クラブ活動

人 称	実施回数	参加者数	備 考
茶 道	9回	延 198人	※11月は文化祭のためクラブ実施はしていない。 また、講師都合により1月2月は実施していない。
華 道	12回	延 52人	
書 道	10回	延 59人	
チェアヨガ	18回	延 218人	
籐工芸	11回	延 32人	
大相撲星取り	6回	延 92人	
カラオケ	26回	延 370人	

(3) 地域交流

交流等の相手	交流の内容	実施時期等	備 考
近隣町内会及び 関係機関	意見交換等	6/16	安生園地域交流懇談会
	安生園納涼夏祭り	7/25	
虹ヶ丘町会	公園整備	5/6・5/29	
北赤坂町会宝寿会	利用者との交流	6/27	安生園輪投げ大会
自由ヶ丘老友ほのぼの会			

(4) 保健衛生

内 容	実施時期等	人数等	備 考
身長測定	年1回(4月)	全員	
血圧・体重測定	月1回	全員	
入浴	週3回	全員	男性：月・水・金 女性：火・木・土
通院	週間計画表により実施	対象者	

結核検診	4/5	89人	
春・秋の基本健診（理学的検査・尿・血液・心電図）	5/30	89人	
	11/7	92人	
嘱託医による講話	8/8・10/18	42人	
歯科検診	4/11・4/18・5/25	85人	
歯科衛生指導	年4回	延85人	
内科問診及びインフルエンザ予防接種	11/14	90人	嘱託医
嘱託医による医療相談	月2回	対象者	内科
嘱託医による診察	月1回	対象者	精神科
感染症対策委員会	4回		
春の大掃除	6月		
秋の大掃除	12月		

(5) 防災訓練及び安全対策

内 容	実施時期等	参加者数	備 考
交通安全教室	5/25	38人	
夜間想定防災訓練	6/12	105人	
夜間防災訓練	7/7	79人	地域防災協力隊19人参加
災害時炊き出し訓練	9/10	72人	社会貢献学会合同

(6) 交流（慰問）・ボランティア

① 交 流（慰問）

団体等名称	内 容	実施時期等	備 考
キューティーブロンド	お笑い	8/8	
明の星幼稚園交流会	歌・お遊戯	9/28	
保健大三味線サークル交流会	歌（三味線に合わせて）	9/29	
希望の会	歌・踊り	10/31	
聖アルバン幼稚園交流	歌（収穫物を頂く）	11/12	
明の星短大合唱サークル	歌	11/24	
踊りサークル 木原	踊り・歌	12/14	
3保育園交流会	踊り・歌	12/18	
青森高校合唱部	合唱	3/11	

② 招 待

団体等名称	内 容	実施時期等	参加者数
青森市	ねぶた観覧	8/2	8人
青森県立保健大学	大学祭参加（三味線サークル）	10/6	3人
平内町	洋ランまつり	3/18	7人

③ ボランティア

団体等人称	奉仕内容	実施時期等	人 数
個人	茶道クラブ指導	年間	1人
	華道クラブ指導	年間	1人
	書道クラブ指導	年間	1人
	籐工芸クラブ指導	年間	1人
青森市立佃中学校	サマーボランティア	7/25	5人
青森市立佃中学校	施設内環境整備	12/26	14人
シニアカレッジ	花壇整備	6/26	5人
	除菌布裁断	7/31	4人
	除菌布裁断	8/21	3人
	制作活動（ちぎり絵）	10/30	12人
	除菌布裁断	11/13	10人

(7) 地域福祉関係

団体等人称	内容	実施時期等	備 考
市内グループホーム(1施設)	音楽療法の開放	月1～2回	
青森県立第二高等養護学校	就業体験	年2回	コーヒーサロン

(8) 職員研修関係

外部の研修に職員を派遣したほか、所内で次の研修会を行った。

内 容	実施時期	参加者数	備 考
見守りタグ及びヒトココ研修	6/12	8人	
『救命講習』及び『誤嚥時の対応』	6/14	16人	東消防署
介護保険について	6/6	13人	
合同研究発表会	12/5	21人	
虐待防止研修	1/18	9人	
身体拘束・虐待防止研修	3/8	15人	支援課・総務課
	3/18	5人	居宅支援センター
	3/14	12人	ヘルパー
感染症予防について	10/18	14人	
合 計		113人	

(9) 苦情解決事業関係

内 容	実施時期等	備 考
第三者委員相談	月1回	
苦情解決協議会	年4回	

(10) 実習・実務研修等受入

依頼元（実習内容）	受入期間	人 数
青森明の星短期大学 （介護福祉実習Ⅱ-B）	6/1～20	2人

青森明の星短期大学 (介護福祉実習Ⅱ-B)	9/1～26	2人
青森県立保健大学 (社会福祉実習)	8/6～22・9/10～24	2人
青森大学 (社会福祉実習)	8/27～31・10/1～29	2人
青森県立青森第二高等養護学校 (体験実習)	5/15・9/4・11/20・1/29	32人
青森県立青森第二養護学校 (産業現場等における実習)	6/19・7/3・8/23・10/2	20人
青森県立青森第二高等養護学校 (現場実習)	6/21・6/28・9/13・10/18・ 11/29・1/31・2/7	47人
青森県自治研修所 (新採用職員に係る体験学習)	10/11	5人
	10/18	5人
	10/25	5人
	11/1	5人
	11/8	5人
青森市立東中学校	7/24	6人
青森市立佃中学校	8/30～31	4人
青森市立筒井中学校	7/3～4	4人
青森市立造道中学校	9/4	4人
合 計		150人

Ⅱ 老人居宅介護等事業（ヘルパーステーションあんじょう）

1 概 況

サービス利用者が前年度と比べて要介護利用者の延べ利用人数が585人減、介護予防利用者の延べ利用人数が88人増となり、利用者全体の利用人数は、計497人減となった。収入については、要介護利用者の請求額が1,408千円減、介護予防利用者の請求額が610千円減、計2,018千円の減となった。この背景には平成30年度法改定により、同一建物等居住者サービス提供の報酬の見直しがあり、これまでの10%減算から15%減算となったことが収入減に繋がっている。

また、平成26年度に開始した福祉有償運送事業については、施設内外を問わず利用者の幅広い活動（通院や買い物等）の運送サービスの定着を目指して実施し続けており、売り上げは前年度並を維持している。

その他、定例のヘルパーステーション内部研修を毎月実施した他、外部の研修や介護知識・技術等の質の向上に努めた。

2 職員の状況

(平成31年3月31日現在)

	管理者	サービス提供 責任者	訪問介護員	計
男		1		1
女	(1)	1	10	11
計	(1)	2	10	12

※管理者はサービス提供責任者兼務となる。

3 重点事項の取組状況

(1) 利用者のニーズに即応した総合的サービスの提供

カンファレンス等により利用者のニーズを把握し、即応したサービスを提供した。

(2) 介護技術・コミュニケーション技術の向上

毎月、介護・コミュニケーション技術を向上するための職員研修を実施したほか、県老人福祉協会主催の介護研修へ参加し、各職員への伝達研修も実施して技術向上を図った。その結果、9月2日に開催された青森県社会福祉協議会主催の介護技術コンテストへ参加し、技術発表するに至った。

(3) 前年度平均利用者数比5%以上の新規利用者獲得・確保

新規利用者は園内、外部含め9名の獲得（前年度比4.5%増）であった。10月以降は職員の退職に伴い人員減の状態となり、新規利用の依頼はあるものの受入れが困難な状況となった。

(4) 居宅介護支援事業所等関係機関との連携強化

東部圏域内外問わず、地域包括支援センターが主催する研修会及び地域ケア会議に参加する等、日頃から外部居宅事業所との連携に努めた。

(5) プライバシーの保護

プライバシー保護マニュアルに沿い、事業所内でのミーティングやヘルパー会議において周知徹底を図り、利用者のプライバシーの保護に努めた。

(6) 制度改正に伴う法令の順守

制度改正に伴う法令を遵守するため、8月に開催したヘルパー研修会にて「倫理及び法令順守と「プライバシー保護」を取り上げ、知識を深めるとともに意識向上を図った。

4 実績

(1) 訪問介護・介護予防訪問介護事業

合計		訪問介護		予防介護	
延利用 人数 (人)	請求書 発行額 (円)	延利用 人員 (人)	請求書 発行額 (円)	延利用 人員 (人)	請求書 発行額 (円)
8,086	24,765,001	7,788	23,889,765	298	875,236

(2) 福祉有償運送事業

	福祉タクシー	介護タクシー
走行距離 (km)	62.9	4,640
利用人数 (人)	6	1,493
輸送回数 (回)	14	1,556
収入 (円)	17,620	538,800
収入合計 (円)		556,420

Ⅲ 居宅介護支援事業安生園（居宅介護支援センターあんじょう）

1 概況

利用者獲得のため関係機関等へのPR活動、また、各事業所、病院、薬局等へのパンフレット配布、設置を実施してきた。

安生園内の利用者については、施設職員との連携により身体機能の低下や介護予防のためのサービス利用を計画した。在宅利用者については、地域包括支援センターや、事業所、利用者家族等からの新規紹介があった。

平成30年度は、主任介護支援専門員を含む介護支援専門員4人体制の特定事業所加算Ⅱの体制が整ったところであり、実務経験の浅い介護支援専門員の質の向上に重点を置いた。

前年度と比べ、利用者延べ人数が17人の減少となり、居宅介護支援費が763千円の減、認定調査費が163千円の増、介護予防支援費が92千円の増、合計508千円の減少となった。これは利用者の介護度が軽度化したことにより、単価の高い要介護利用者が減少し、単価の低い介護予防利用者が増加したためである。

2 職員の状況

(平成31年3月31日現在)

	管理者 (主任介護支援専門員)	介護支援専門員	計
男		1	1
女	1	2	3
計	1	3	4

3 重点事項の取組状況

(1) 介護保険制度及び事業所の周知・広報啓発の強化

介護保険制度及び事業所の周知・広報啓発の強化を図るため、地域包括支援センター主催の民生委員や各事業所参加型研修等に積極的に出席した。

(2) 関係機関や近隣地域等とのネットワークの強化

各関係機関や近隣地域等とのネットワークの強化を図るため、地域包括支援センター主催の民生委員や各事業所参加型研修等に積極的に出席した。

(3) ケアマネジメントの質の向上

ケアマネジメントの質の向上のため地域包括支援センターや各自治体主催の

研修に積極的に参加し、各自のスキル向上に繋がった。

(4) 前年度平均利用者費 3%以上の新規利用者の獲得・確保

前年度平均利用者比 3%以上の新規利用者獲得・確保を目指した。要介護利用者数が約 6%減少し、要支援利用者が 25%増加となり、利用者数の増加にはなかったものの、要介護利用者獲得が今後の課題となった。

(5) 制度改正に伴う法令の遵守

平成 30 年度介護保険制度改正に伴う法令を遵守するため、積極的に制度改正に伴う研修に参加し、事業所内でも周知に努めた。

4 実績

合計		居宅介護計画		予防介護計画		住宅改修支援		認定調査	
延利用 人員 (人)	請求書 発行額 (円)	延利用 人員 (人)	請求書 発行額 (円)	延利用 人員 (円)	請求書 発行額 (円)	延利用 人員 (人)	請求書 発行額 (円)	延利用 人員 (人)	請求書 発行 (円)
1,389	20,121,387	1,127	19,073,420	115	458,550	0	0	147	589,417

第4 障害者総合福祉センターなつどまり

1 概況

施設の運営にあたっては、法人の基本理念とともに、各寮において定めた「基本理念」及び「基本方針」に基づき施設運営に努めてきた。

特に、利用者一人ひとりの人権尊重を基本とし、利用者の立場に立ったサービス提供を行うため、各寮において、「事業団職員倫理綱領」や「知的障がいのある方を支援するための行動規範」等の斉唱を継続的に実施するとともに、権利擁護等に関する研修をセンター全体として、また各寮で実施するなど虐待等不適切な支援の防止に向けた意識向上に取り組んだ。

この他、外部研修の受講に積極的に取り組み、専門知識の習得とスキルアップに努めるとともに、職員の資格取得を奨励した。

一方、利用者の重度・高齢化に伴う疾病等に対応するため、医療機関や関係機関並びに家族との積極的な連携を行いながら健康管理に努めたが、3人の方が疾病等で病院にて亡くなり、2人の方が医療機関等へ移行となった。

人材確保においては、ハローワークはもとより、新聞折り込み広告、職員等からの紹介を呼び込みするなど、取り組んできたが各寮ともに欠員が埋まらない状況が続き、職員不足の解消までには至らなかった。

また、事業運営の安定性・継続性を維持していくため、事業定員の充足率、利用率及び収支状況等を会議等で報告し、職員の経営意識の醸成を図った。

2 重点事項の取組状況

(1) 人権擁護と虐待防止の意識を高め質の高いサービスの提供

- ① 毎月、職員セルフチェックリストによる自己点検等により振り返りを行い、適切な利用者支援に努めた。
- ② 苦情解決協議会及び虐待防止委員会は10月と2月に開催した。
- ③ 人権侵害ゼロへの誓い宣言は4月と10月に職員が署名し、宣言書は施設内廊下に掲示した。
- ④ 擁護関係の外部研修には計画どおり順次職員を参加させた。また、内部全体研修を1度、寮ごとの研修を1度実施し、それぞれグループワークを通じて不適切な支援についても話し合った。

(2) 各事業所の安定した経営基盤の構築

- ① 入所定員の充足率100%に向け、一時的に欠員が生じた事業もあったが迅速に欠員補充の対応を行った。
- ② 職員一人ひとりが自立経営の意識を持つため、運営会議や各寮の会議等において、予算執行状況や定員の充足率等の報告を年3回以上行い、経営に関する意識の向上を図った。
- ③ 障害程度区分の認定調査において、しらかば寮では5人、さつき寮では13人が区分変更となり、既存事業の収入増につながった。

(3) 良質な福祉人材の確保と育成

- ① 職員定着や魅力ある職場づくりの取り組みとして、新採用職員へ対してエルダー制度での支援を、またそれ以外の職員に対しては職員面談シートを利用した面談等を実施した。離職率は4.3%であった。
- ② サービス管理責任者研修に2人、強度行動障害支援者養成研修に21人を受講させた。
- ③ 職員との定期的面談は年3回実施した。
- ④ 日々の業務におけるOJTの取り組みは、各寮ともに職員不足等の面から継続的・効果的に十分行えなかった。

(4) 職員の健康管理と労務管理

- ① 労災事故として、行動障害のある利用者支援中の怪我等が4回あった。また、職員の勤務中の公用車での交通事故は1件あった。
- ② 年次有給休暇の取得率は平均8.6日でほぼ前年度同様に推移した。
- ③ ストレスチェックを年1回実施し、衛生委員会等において分析を行った。
- ④ 腰痛予防対策研修を年1回実施した。
- ⑤ 健康診断後の要精検者等へ結果通知及び必要な指導を行ったものの、要精検者等による再受診の結果報告者数は半数以下であった。

(5) 生活環境の充実

- ① センター周辺の道路のひび割れ補修については、予算の関係上次年度以降に先送りした。
- ② 各種設備等の点検については、利用者の安心・安全な環境を確保するため、定期・随時点検を実施し早めの修繕、部品交換等を行った。
- ③ 環境整備や大掃除等は計画どおり取り組んだ。
- ④ 経費節減に向けたLED電球への更新は計画どおり実施し進捗率65%となった。
- ⑤ 利用者の食生活の充実を図るため、嗜好調査を一度実施した。また、給食委員会で利用者等の意見・要望を伺い給食メニュー等に反映させた。

(6) 地域等への情報発信の充実

- ① 広報誌は計画どおり年3回発行した。
- ② ホームページの更新については、依頼業者との連携が不十分で適時更新されなかったため、今後反省を踏まえて対応していく。

3 職員の状況

(平成31年3月31日現在)

所 属 (職員数)	所長	寮長	推進監	課長	主任	副主任	支援員	看護師	事務員	栄養士	専任 当直員	世話人	合計
総務課	1			1					1	2	3		8
しらかば寮		1	1	1	5	4	33※	2					47
さつき寮		1		2		6※	20					8	37
合計	1	2	1	4	5	10	53	2	1	2	3	8	92

※運転員兼支援員はしらかば寮支援員とし、さつき寮副主任には看護師2人含む。
(さつき寮地域支援課はさつき寮として集計し、嘱託医は除く。)

4 職員研修

利用者に最良の支援を提供するとともに、福祉サービスの質の向上及び職員の資質向上を図るため、職場内研修会（虐待防止研修、感染症予防研修等）や研究発表会並びに職場外研修（支援者講座等）についても計画的な取組みを実施した。

また、職員個々の資格取得研修（サービス管理責任者研修、強度行動障害研修等含む）を推奨し、人材育成に積極的に努めた。

5 健康管理

健診や癌検診（30歳以上の女子利用者には子宮癌検診、20歳以上の女子利用者には乳癌検診、40歳以上の利用者には胃癌及び大腸癌検診）を実施するとともに、嘱託医（精神科）や医療機関、並びに家族とも連携しながら、疾病の早期発見及び早期治療に努めた。

また、インフルエンザ等感染症の予防対策として、インフルエンザワクチンの予防接種や手洗い、うがい等の励行に努めたほか、次亜塩素酸ナトリウムでの居室等の除菌等（空中散布等）を継続的に実施した。

6 食事

食事は施設生活における大きな楽しみの一つであることから、少しでも家庭的な雰囲気の中、楽しくゆっくりくつろいだ食事ができるよう配慮した。

また、栄養バランスを基本とした季節の食材を取り入れた多彩な献立（新メニュー等）や暦行事に合わせた行事食等の提供に努めた。

併せて、利用者の嗜好、身体状況等（咀嚼能力等）に配慮しながら、様々な食事形態等を準備し個別の対応を行った。

7 安全・防災管理

(1) 安全対策

① 利用者の安全確保を最優先として、安心・安全な日常生活が送れるように各種マニュアルの周知徹底を図るとともに、アクシデントレポート等の速やかな報告と検討内容による対応策を講じた。

② 外部からの不審者等侵入に対する危機管理の観点から、利用者の安全確保を最優先とした、危機管理体制マニュアル（不審者対応）の作成及び周知徹底を図るとともに、不測の事態を想定した不審者等に対する防御用具の使用方法及び対応・実技について警察官の協力を得て訓練を実施した。

(2) 防災管理

① 職員に対し非常時における対応について防災教育を行い、消防計画に基づいた防災訓練を実施した。また、地域防災協力隊と共に避難訓練を実施し連携強化

を図るとともに、合同による炊き出し訓練も実施した。

- ② 水害・土砂災害を含む非常災害時に備えた防災計画（風水害・雪害）の策定及び職員への周知徹底を図るとともに、土砂災害を想定した避難訓練を実施するなど誘導體制の強化に努めた。

8 ボランティア・実習の受け入れ

福祉人材育成の見地から引続き実習生の積極的な受け入れを行った。また、ボランティアの参加については、夏祭りなどの行事を含めて少ない状況が続いている。

9 地域との連携

地域に開かれた施設として、施設運営に関しても、さらに地域住民と連携し地域との交流促進（各種ボランティアの受け入れ、地域行事への参加（平内町清掃奉仕活動・平内町民文化祭等への参加））に努めた。

また、共生社会の実現と社会貢献に積極的に取り組む必要があることから、平内町地域自立支援協議会、平内町健康・福祉推進協議会、及び地域ケア会議等へは引き続き積極的に参画し、地域の福祉ニーズを把握しながら地域との連携を図った。

I 障害者支援施設しらかば寮

1 概況

平成30年度においても、しらかば寮の基本理念である「利用者一人ひとりが安心して、明るく楽しい生活が送れるように真心を持って支援します」を実現するために、利用者の人権尊重と権利擁護の推進、個々の有する能力及び適性に応じ自立した日常生活や社会生活が営めるよう支援の充実に努めてきた。

今年度の退所者の状況は、1人の方が介護保険対象の施設へ移行し、1人の方が長期入院となり退所し、1人の方が入院中に亡くなられた。

入所では、短期入所利用から1人、障害児入所施設から1人の利用者が入所している。

また、利用者の高齢化や身体機能の低下に伴い、介護を必要とする人が全体の40%を占め、転倒、誤嚥等のリスクも高くなっていることから、医療機関との連携による医療ケア、機能低下に伴う介護予防等、きめ細かな支援に努めてきた。更に重度化も進み、障害支援区分の平均が5.4、区分5～6の利用者の割合が全体の86%と年々高くなっている。

職員研修においては、強度行動障害を有する利用者が36人おり、より専門的な支援を必要とする方が増えたことから、適切な支援と個々の障害特性の理解を高めるため、支援者養成研修等に積極的に職員を参加させた。さらに、専門家によるアドバイスを受けながらサービスの向上に努めてきた。

2 職員の状況

(平成31年3月31日現在)

職名 男女別	寮長	推進監	課長	課長代理	主任 支援員	副主任 支援員	支援員	看護師	合計
男	1	1			3	3	16		24
女			1	1	1	1	16	2	22
合計	1	1	1	1	4	4	32	2	46

3 利用者の状況及び入退所の状況

(1) 定員及び入退所条項

	日中活動	再掲 (施設入所支援)
定員	80人	80人
平成29年度末現在利用者数	79人	80人
平成30年度内退所利用者数	3人	3人
平成30年度内入所利用者数	2人	2人
平成30年度末現在利用者数	78人	79人

(2) 年齢別利用者数

(平成31年3月31日現在)

男女別 年齢別	一課 (一般棟)			二課 (高齢者棟)			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
18～29	12	4	16	1		1	13	4	17
30～39	4	3	7				4	3	7
40～49	3	2	5	1	1	2	4	3	7
50～59	2	9	11	4	1	5	6	10	16
60～69	2	4	6	9	7	16	11	11	22
70～79				3	5	8	3	5	8
80以上				1	1	2	1	1	2
計	23	22	45	19	15	34	42	37	79
平均年齢	36.3	46.6	41.3	60.5	68.6	64.1	47.2	55.5	51.1

(3) 障害支援区分別利用者数

(平成31年3月31日現在)

男女別 障害支援区分別	一課 (一般棟)			二課 (高齢者棟)			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
非該当									
区分1									
区分2									
区分3		1	1					1	1
区分4		2	2	2	3	5	2	5	7
区分5	6	4	10	9	4	13	15	8	23

区分6	17	15	32	8	8	16	25	23	48
計	23	22	45	19	15	34	42	37	79

4 重点事項の取組状況

(1) 利用者の人権尊重、権利擁護及び虐待防止の一層の推進

- ① 毎月、職員セルフチェックリストによる自己点検簿を分析し、会議等で振り返りを行い適切な利用者支援に努めた。
- ② 虐待防止及び権利擁護関係の研修に計画どおり参加した。
- ③ 苦情解決協議会及び虐待防止委員会を10月と2月に開催した。
- ④ 朝会等で行動規範、職員倫理綱領を斉唱し職員間へ周知を図った。
- ⑤ 人権侵害ゼロへの誓い宣言を4月と10月に署名し、宣言書を施設内廊下へ掲示した。

(2) 利用者一人ひとりの特性やニーズに即した個別支援の充実

- ① 利用者の機能の維持向上を図るとともに、心身の活性化や生活の質を高めるため、歩行やダンス等による体力づくり、音楽療法などによる感性を豊かにする楽しみづくりに取り組んだ。
- ② 行動障害が著しい利用者への対応として、外部機関によるコンサルテーションを実施した他、支援方法の検討、環境調整等を随時行った。

(3) 医療・看護ケアの充実並びに安全の確保、リスクマネジメントの強化

- ① 医療的ケアを要する利用者（胃ろう、ストーマ増設者）への支援マニュアルを整備し、各種会議等で医療に関する知識を深めた。
- ② リスクマネジメントに関する研修会等への参加の他、毎月インシデント・アクシデント等の検証・分析を行い、安心・安全なサービスの提供に努めた。

(4) 日中活動系サービス及び居住系サービスの質の向上

サービスの質の向上委員会を定期的で開催し、各種マニュアルの見直しを実施した他、より安全な見守り体制等についての検討や改善の取組みを強化した。

(5) 苦情相談等には迅速で誠意ある対応

利用者からの各種苦情に対しては、苦情解決事業実施要綱に基づき、迅速にそして誠意をもって対応した。

(6) 家族等との連携強化

面会日や家族交流会を通じて保護者との連携強化に努めた。

(7) 施設・環境の整備

毎月の環境整備に加え、年2回大掃除を実施した。

(8) 事業運営の透明性の確保

広報誌やパンフレット、ホームページ等を利用して様々な情報を発信した。

(9) 地域社会との連携

地域行事への参加及び社会資源の活用など、利用者の個別的状況に配慮したほか、交流の機会の確保に努めた。

(10) 合理的配慮並びに意思決定支援の推進

職員間、職種間の情報共有と意見交換により、その人らしさを尊重した支援の推進に努めた。

5 事業の実施状況

(1) 生活介護事業（日中活動系サービス）の実施状況

主に日中に入浴、排泄、食事等の介護や、創作的活動、身体機能や生活能力の向上のために必要な援助を行った。

① 個別支援計画によるサービス提供

利用者一人ひとりの能力・適性・ニーズ等に基づいた個別支援計画を作成し、支援目標の達成に向けた支援を実施した。また、行動障害が著しい利用者への個別支援、高齢・重度化に伴う身体機能低下の予防や転倒、誤嚥等に配慮した支援を行った。

② 班編成による創作的活動、生産活動の支援の実施

ア リサイクル班

活動内容は個々の特性・能力に応じて支援目標を設定し、空き缶、ペットボトルの分別、プルタブ取り、缶つぶしを行った。前期に数回実施したが、職員数の不足の影響もあり、後期のリサイクル班活動は休止することとなり、リサイクル班の利用者は「生活リズム班」と「介護予防班」に分かれて、日中活動を実施した。

イ 生活リズム班

ADL等の自立度により、年間個別支援計画に沿った活動を行った。体力維持及び健康面に配慮しながら、屋内外の歩行、ライトコートでの日光浴、リズム遊び、遊具を使用して身体を動かした。また、個人の特性や趣向に応じて、音楽鑑賞、創作活動を行った。

ウ 介護予防班

利用者のADLや障害特性に配慮し、「体操」、「全体レクリエーション」「個別リハビリテーション」「趣味活動」のほか、月3回の音楽療法、月2回のチェアヨガ等を行った。また、天気の良い日には屋外歩行やライトコートでの日光浴を実施した。

その他、健康運動指導士による介護予防運動を行った。

③ 健康衛生の向上

ア 生活習慣病の予防と対策

利用者の高齢化に伴い、生活習慣病と共に廃用症候群等の出現への対応が課題となってきた。特に糖尿病、脂質異常を発症する人が増えてきており、適度な運動療法を取り入れ、食後の散歩や間食の取り方を見直し予防に努めるとともに、生活習慣病を予防するため、肥満者を対象に肥満食を提供し、毎月体重測定と運動の励行を行った。

口腔ケアとして、青森市歯科衛生士会の協力で、利用者の歯磨き及び介助

歯磨き、仕上げ歯磨きの講習を行った。

イ 医療状況

- ・嘱託医診療 対象者～全員
- ・精神科（青森県立つくしが丘病院）月2回（第2、第4木曜日）

ウ 検診状況

- ・対象者 全員
- ・検診内容 血液検査、心電図(年2回)、結核検診、尿検査（年1回）
各癌検診（大腸・胃・乳・子宮～希望者のみ実施）

エ 感染症予防対策

インフルエンザ、ノロウイルス、急性胃腸炎等の発症状況は、予防接種、早期受診、次亜塩素酸水の噴霧、毎食後、除菌ウェットタオルで行う消毒清掃の継続により、利用者の罹患者は出なかった。

一年を通して、抗菌マスク、微粒子マスク、使い捨て予防衣、使い捨てキャップ、使い捨てシューズカバーを準備し、うがい、手洗いの励行、アルコール手指消毒器の使用、マスク装着の指導、換気、大型加湿器による環境整備を行った。各ホームには利用者の医療一覧、感染症発症時対応マニュアル、応急手当マニュアルを備えるとともに、感染予防認定看護師による職員研修を実施し、感染症予防に努めるとともに、利用者の安全と健康管理を行った。

オ 通院状況

通院状況			服薬者状況
区分	実人員	延回数	実人員
内科	57	545	41
精神科	54	648	53
耳鼻科	2	10	0
歯科	20	183	0
皮膚科	5	29	0
外科	9	35	1
整形外科	18	127	6
眼科	4	20	0
泌尿器科	5	45	3
乳腺外科	3	4	0
呼吸器科	1	2	0
産婦人科	1	1	0
合計	179	1,649	104

カ 入院状況

区分 科別	実人員	延日数	病人
内科	6	328	急性肺炎、嘔吐症
整形外科	1	40	左膝蓋骨骨折
精神科	2	211	心因反応、てんかん
外科	1	87	胆嚢炎、胆石症
泌尿器科	1	24	尿毒症、人工透析、膀胱がん
眼科	1	5	白内障
合計	12	695	

④ 音楽療法の実施（実施日・場所）

ア 個人セッション（月1回 水曜日の午前・面会）

一課利用者2人 実施回数12回

イ グループセッション（月3回 火曜日の午前・二課食堂）

一課利用者4人、二課利用者25人 実施回数36回

⑤ チェアヨガ活動

身体機能の衰えが顕著となってきた事から、チェアヨガの講師を月2回招き椅子に座っての簡単なストレッチを行った。身体機能の活性化だけでなく、脳への良い刺激ともなった。

⑥ 個別及びグループごとの外出の支援

買物・外出体験を通して、金銭の使い方、社会のルール、マナーを学んでもらうとともに、個別でまたはグループで楽しい時間を過ごすことを目的に実施した。

(2) 施設入所支援事業(居住系サービス)の実施状況

居住の場を提供し、日常生活上の支援を行った。

① 個別支援計画によるサービス提供

利用者一人ひとりの能力・適性・ニーズ等に基づいた個別支援計画を作成し、支援目標の達成に向けた支援を実施した。

② 余暇活動・趣味的活動等の充実

ア 個別及びグループ毎の外出の支援

公用車（マイクロバス等）を利用し、土・日小湊地区（マックスバリュ平内店など）を中心に買物等を計画し実施した。また、個別外出については希望に応じて随時実施した。

イ 招待外出

3月に夜越山洋ラン祭りへ2日間に渡り一課10人、二課7人の利用者が招待を受け参加した。

ウ 外部講師による活動の支援

・書道

実施日：月2回（第2、4金曜日）18：30～19：30 計23回

参加者：一課利用者 1 人、二課利用者 5 人

③ 生活環境の整備

ア リネン・寝具交換

平成 24 年度から、外部業者と寝具の賃貸借契約を締結している。

シーツ等 1 回/週、タオルケット・肌掛けカバー 1 回/月、布団カバー 1 回/月、掛け・敷き布団 1 回/年の交換を行った。

イ 洗顔用具等の洗浄

歯ブラシ、コップ、洗面器等を週 1 回消毒、洗浄し、個々の洗面棚に保管するなど衛生管理に努めた。

ウ 居室等の大清掃

空調設備及び、各居室のエアコンの掃除を実施した他、春の大掃除と年末のすす払い、居室等の大清掃を利用者と一緒に 2 回実施した。また、委託業者による特別清掃を年 6 回実施した。

エ 室温等の管理

空調が完備されており、冬期間の乾燥対策として、各ホームに加湿器等を配置し湿度の調整を行ったことにより快適に過ごすことができた。

(3) 利用者の権利擁護の推進

① 苦情相談システムの利用促進

苦情件数については 4 件であった。中には苦情ではなく不安、相談を述べるだけのものもあった。

苦 情 内 容	件 数
サービスの質や量(食事内容、サービス提供に関する不満など)	0
利用者間の人間関係など	3 (相談 1)
職員の対応(態度、言葉づかいが悪いなど)	1
被害/損害(預り金、所有物の紛失など)	0
権利侵害(虐待、プライバシー侵害など)	0
生活環境(設備など)	(相談 4)
病気/怪我/医療面	0
その他(上記以外のもの)	(相談 7)
合 計	4(相談 1 2)

② 利用者への情報公開・情報提供の充実

掲示板の活用や口頭での情報提供を行った。また、写真やパンフレット等を活用し、利用者に分かりやすい方法を採用した。

③ 基本的権利行使への配慮

4 月に実施された県議会議員選挙へは、当日 4 人が選挙所へ出向き投票を行った。

(4) 地域交流

夏祭りや総合防災訓練等を通して地域の方々と交流した。

(5) 家族との連携

利用者が心豊かな生活を営み過ぎていくためには、家族の理解と協力が不可欠であるため、月の第三日曜日に面会日を設定した。また、一時帰宅等についても可能な範囲での協力をお願いしている。

① 利用者個別支援計画

利用者個々の支援計画については、その内容を家族と十分協議しながら設定した。また、支援経過についても面会日等を通じて随時家族に説明し、面会が難しい場合は電話等や書面により対応した。

② 面会日等における対応

ア 4月15日(日) 全体懇談会(事業計画、運営方針)と支援計画等について個別懇談

イ 10月21日(日) 支援計画に基づいた支援状況の報告についての個別懇談

ウ 11月18日(日) なつどまり研究発表会と支援計画等について個別懇談

エ 3月10日(日) 全体懇談会と支援状況報告及び支援計画立案について個別面談

(6) 利用者の安全面の確保

利用者等の安全確保及び事故発生時の迅速な対応を図るため、インシデント、アクシデントレポート等の報告書作成と提出を習慣化し、ホーム会議等で検討・対策等を行い寮会議で報告、周知を図った。

事 故 内 容		アクシデント 件数	インシデント 件数
医療関係	急病(救急車搬送等)	2	0
	誤飲・誤嚥	2	0
	誤与薬	2	1
	その他 (医療機関への連絡ミス)	0	0
事故関係	転倒・衝突(救急搬送)	0	0
	転倒・衝突(通院・入院)	4	0
	転倒・衝突	36	66
	その他 (打撲、飲みこぼし、不明)	33	21
介護関係	転倒(通院・入院)	0	0
	転倒	12	3
	異食	7	1
	残薬、落薬、飲み忘れ	26	44
	その他 (バルン抜去、爪切りによる創傷、配薬ミス等)	29	29

外出関係	無断外出（敷地外）	0	0
	集団離脱（敷地内）	6	1
利用者関係	他害	46	11
その他（他室への侵入、自傷、虫刺され等）		10	17
合 計		215	194

(7) 職員研修

今年度も事業団事務局が主催する法人内研修や他団体主催の県内外の研修等に参加した。特に強度行動障害基礎研修に6人、実践研修へも3人参加した。

また、なつどまり内での職員研修として、「知的障害・発達障害等について」を開催し、障害への理解向上に努めたほか、普通救命講習会や虐待防止研修会、感染症予防研修会、不審者対応の研修会等を開催し、実践に役立つ知識と技術の修得に努めた。

(8) 行事の実施状況

内 容	実施期間	参加人数	備考(行先など)
花見会	5月8日	全利用者	開所日
春の大掃除（一課）	5月30日	一課利用者	開所日
春の大掃除（二課）	5月31日	二課利用者	開所日
七夕会	7月6日	全利用者	開所日
納涼会（二課）	8月19日	二課利用者	開所日
納涼会（一課）	8月19日	一課利用者	開所日
障害者スポーツ大会	8月26日	4人	昼食時外食
長寿を祝う会	9月5日	全利用者	開所日
ミニ運動会	9月30日	全利用者	開所日
育成会との交流会	9月9日	1人	開所日
訪問販売	11月25日	全利用者	開所日
利用者忘年会	12月9日	全利用者	開所日
クリスマス会	12月22日	全利用者	開所日
冬の大掃除	12月15日	全利用者	開所日
正月っこ（一課）	1月2日	一課利用者	開所日
正月っこ（二課）	1月3日	二課利用者	開所日
節分（二課）	2月1日	二課利用者	開所日
節分（一課）	2月5日	一課利用者	開所日
桃の節句	3月3日	全利用者	開所日
班活動慰労会	3月13日	全利用者	開所日
夜越山洋ラン祭り外出	3月5日	10人	招待外出
夜越山洋ラン祭り外出	3月6日	7人	招待外出

(9) 日中一時支援事業

① 概況

平内町の委託事業として在宅家族の介護負担を軽減するため利用者に活動の場を提供し見守りや社会適応するための日常生活訓練を行う事業であるが、今年度の利用実績はなかった。

② 利用状況

利用件数 0件 延べ日数 0日間

II 短期入所事業しらかば寮

1 概況

在宅で生活している障害者の介護を行う者の疾病、その他の理由により短期間の入所を必要とする障害者等に対して、空室があった場合のみサービスを提供し、入浴・排泄及び食事の介護、その他必要な支援を行う短期入所事業所を実施した。

2 利用状況

利用件数 2件 延べ日数 61日間

III 障害者支援施設さつき寮

1 概況

平成30年度は、利用者の人権尊重・権利擁護・虐待防止について継続的に取り組むとともに、リスクマネジメントの強化を図るため、寮内にリスクマネジメント委員会を独自に設置した。

また、障害の多様化に対応するため、当事業団の発達障害者支援センターステップ所長と連携し、強度行動障害・自閉症・発達障害等を有する利用者が安定した日常生活を送ることができるようにコンサルテーションを活用し、支援の強化を図った。

生活介護事業においては、ゆとり加工班（古紙分別・銅線加工等）、加工班（古紙分別・銅線加工・ホタテ養殖用品等の作業委託）、きのこ班（しいたけ栽培）、クリーニング班（衣類クリーニング）、4班の活動を継続して実施し、利用者へ工賃を支給した。

2 職員の状況

(平成31年3月31日現在)

職人 男女別	寮長	課長	副主任 支援員	支援員	看護師	合計
男	1		1	12	1	15
女		1	2	5	1	9
計	1	1	3	17	2	24

3 利用者の状況

(1) 入退所の状況 (平成31年3月31日現在)

内 容	生活介護	施設入所
定員	60	60
年度初利用者数	62	61
新契約者数	1	2
解除者数	1	1
年度末利用者数	62	62

(2) 年齢別利用者数 (平成31年3月31日現在)

年齢区分	入所利用者		通所利用者		合計
	男	女	男	女	
10～19	0	0			0
20～29	9	3		1	13
30～39	7	3			10
40～49	5	3	1		9
50～59	11	4			15
60～以上	9	8			17
合計	41	21	1	1	64
平均年齢	44.7	50.3	47.0	27.0	47.4
最高年齢	71	79	47	27	
最低年齢	20	20	47	27	

(3) 障害支援区分別利用者数 (平成31年3月31日現在)

障害支援区分	入所利用者	通所利用者	合計
非該当			
区分1			
区分2			
区分3	4		4
区分4	24	1	25
区分5	25		25
区分6	9	1	10
未判定			
合計	62	2	64

4 重点事項の取組状況

(1) 利用者の人権尊重・権利擁護・虐待防止の継続

職員一人ひとりの意識強化に努め、各種会議等においても啓発を強化するとともに、「人権侵害ゼロへの誓い宣言」書に全職員が記人・捺印することで意思表示をした。

(2) 利用者の健康管理の充実

年2回の健康診断と各種癌検診（大腸・胃・乳・子宮）の実施、毎月の体重測定、血圧測定等で疾病の早期発見に努めた。その結果、要精検等は嘱託医を受診し医師の指示のもと、看護師、栄養士、担当職員と相談し利用者の早期治療に努めた。

また、糖尿病食や肥満食等の必要食を提供するとともに、個人目標を掲げ、適度な運動やウォーキングなどに取り組んだ。

(3) リスクマネジメントの強化

リスクマネジメントに関する研修会への参加のほか、委員会を設置し、毎月インシデント・アクシデント等のレポートを検証・分析し対応を検討後職員へ周知した。

(4) 苦情相談へ迅速・適切な対応

常に利用者に対し、苦情相談について周知するように努め、苦情相談があった場合は、苦情解決事業実施要綱に基づき、迅速、適正に対応した。

(5) 障害福祉サービス報酬改定への即応

平成30年度の障害福祉サービス報酬改定による、さつき寮への影響はなかったため、特に対策をとる必要はなかった。

(6) 生活介護事業通所利用者の受入周知の強化

利用者確保のため、関係機関などへの受入周知を図ったが、契約まで至らなかった。

(7) エルダー制度と新人人材育成の強化

当事業団では、新任職員が職場の理念に基づいた基本的態度・姿勢を身につけ、自らの役割や専門性とは何かを考え仕事ができるようにするため、エルダー制度により育成している。

また、新任職員及び転入職員に対して、事業所等の概要、法制度、利用者対応等について、管理職から基本的な知識等の講義をし、少しでも早く仕事に馴染めるようにしたほか、他団体が主催する研修にも積極的に参加させ、職員の質の向上に努めた。

5 事業の実施状況

(1) 日中活動系サービスの実施状況（生活介護）

① 利用者のニーズに応じた個別支援の充実

日常生活に必要な支援については、本人の主体性及び自発性を尊重しつつ、毎月の会議等で利用者支援に関して話し合いを持ち、サービス管理責任者を中心に個別支援の充実を図った。

② 開所日の設定

休日開所日については、社会見学、社会参加（ボランティア等）、余暇活動（映画上映・カラオケ・調理実習等）を実施した。

③ 班活動

ア ゆとり加工班

作業室、多目的室、食堂の3か所の作業場所を予定していたが、職員配置により多目的室と食堂の2か所で実施することが多くなった。そのため飽きずに作業できるように、作業内容を固定せず流動的に選択できるようにした。個人のスケジュール等、個々の特性に配慮し、集中して活動へ取り組めるよう支援に努めた。

イ 加工班

旧館の活動場所まで歩行し移動出来る利用者を中心に作業（古紙選別、ホタテロープピン刺し、ホタテかご組立て等）を提供した。資源として納品し、収入を得ることで工賃をもらい、働くことへの喜びと達成感が得られるよう活動した。

ウ きのこ班

しいたけ栽培を通して、健康増進や体力維持と併せて働く喜びを感じる事ができた。しかし、班利用者の人数が減り利用者一人にかかる負担や仕事量が増えてきたことや、高齢化に伴う体力の維持が課題となってきた

エ クリーニング班

体力に自信はないが、衣類をたたむ事ができる利用者がクリーニング作業を行い、働く喜びを感じる事でこころの安定（やすらぎ）を図った。

また、なるべく一人の利用者に負担をかけず、利用者全員が同じ作業工程を行うことができるよう、職員が作業を教えながら見守り、一人で行うことができるよう支援した。

(2) 居住系サービスの実施状況（施設入所支援）

① 夜間におけるサービス提供

入浴、排泄、食事等の介護、生活等に関する相談・助言のほか、必要な日常生活上の支援を行った。

② 余暇活動の支援

個々の趣味や余暇活動への支援のほか、書道教室及びさつき寮祭に向けた作品の作成等、余暇支援を行った。

(3) 健康管理

① 医療状況

医療体制は、嘱託医（精神科）1人と内科医への受診（月1回 引地内科）看護師4人で健康管理の充実に務めた。他に、通所部2人の健康管理も含め利用者全般の健康維持の推進に努めた。

緊急時対応として応急手当マニュアル、緊急対応フローチャートを職員室、指導員室に備えるとともにAED（職員は全員AED講習受講済み）を職員室に備えている。

誤嚥、のどつまり時対応として、気道閉塞時フローチャートを食堂、指導員室に張り付け、口腔吸引ノズル付き掃除機（掃除用とは別の掃除機）と吸引器を職員室に設置し緊急時の対応に備えた。

疾病の早期発見、早期治療として、各癌検診（胃癌、大腸癌、子宮癌、乳癌）のほか、結核検診、心電図、血液検査、尿検査、血圧測定を実施した。

平成30年度は、入所者1人が外泊から帰寮後インフルエンザに罹患し、受診後A型判定されたが、早い時期からの自室静養、マスク着用と手洗い、うがいの励行、注意喚起によりに他利用者、職員に罹患者は出なかった。

ノロウイルス、急性胃腸炎については居室を初めとする生活空間に次亜塩素酸水を毎日（11月～5月まで）噴霧することと、毎食後に除菌ウェットタオルで行う消毒清掃の継続等により発症者は出なかった。

口腔ケアとして歯科医による往診での歯科検診（しらかば寮と隔年）を実施した。その他、歯周病、虫歯予防として食後の歯磨き指導、介助歯磨きを行っているほか、今年度も青森市歯科衛生士会の協力で利用者の歯磨き指導と職員の仕上げ磨き講習をした。また、各寮に医療一覧、感染症発症時対応マニュアル、等を備え利用者の健康管理に努めた。

なお、利用者の高齢化に伴い、生活習慣病の発病が増加傾向であるとともに、廃用性症候群の出現等対応の課題となってきた。特に脂質異常を発症する利用者が増えてきており、適度な運動療法を取り入れ、食後の散歩、間食のとり利用者を見直し標準体重に近づけることを目標とする。

また、身体機能低下がみられてきた利用者の支援として機能訓練の指導、助言を行なった。

ア 嘱託医診療 対象者～全員

精神科（つくしが丘病院） 月2回（第2、第4木曜日）

イ 検診 対象者～全員

血液検査、心電図（年2回）、結核検診、血圧測定、尿検査、各癌検診（大腸・胃・乳・子宮～希望者のみ本人負担）

ウ インフルエンザ予防対策 対象者～全員

インフルエンザワクチンの接種（施設負担）、抗菌マスク、微粒子マスクを用意し、マスクの励行を指導。含嗽剤でのうがい、手洗い、アルコール手指消毒器の使用、換気、大型加湿器による環境整備を行い予防対策に努めた。また使い捨て予防衣、使い捨てキャップ、使い捨てシューズカバーを準備し発症時対応に備えた。

エ その他

手指消毒器をホール、廊下に設置して手指消毒指導し、毎食後に食堂のテーブル、イス、床、手すり、ドアノブ、スイッチ類を除菌ウェットタオルにて消毒清掃を行い食中毒などの感染症の予防対策をした。

感染性胃腸炎の予防と蔓延防止対策として、次亜塩素酸水を居室、ホール、トイレ、廊下に毎日（11月～5月）噴霧した。また、発症時対応セット（バケツ、ペーパータオル、塩素系消毒剤、嘔吐物凝固剤、ゴミ袋、使い捨てマスク、使い捨て手袋、使い捨て予防衣、使い捨てシューズカバー、処理マニュアル）を各棟に用意し感染症マニュアルに沿って感染予防に努めた。

② 各癌検診の状況

検診人	要精密検査者	内 訳
胃 癌		
大腸癌	2人	2人とも再検査し異常なし
子宮癌		
乳 癌		
結 核	3人	3人とも再検査し異常なし

③ 通院・服薬者状況

通 院 状 況			服 薬 者 状 況	
区分 科別	実人員	延回数	区分 科別	実人員
内科	45	342	内科	24
内分泌内科	1	5	内分泌内科	1
精神科	37	547	精神科	37
耳鼻科	7	30	耳鼻科	
歯科	12	78	歯科	
皮膚科	6	42	皮膚科	
外科	4	16	外科	
整形外科	12	41	整形外科	
眼科	3	13	眼科	
泌尿器科	2	25	泌尿器科	2
脳神経外科	1	1	脳神経外科	
神経内科	1	3	婦人科	
血液内科	1	1	心臓血管外科	
循環器科	1	1	循環器科	
合計	133	1,145	合計	64

④ 入院状況

区分 科別	実人員	延日数	病人
精神科	3	224	適応障害
内科	1	47	肺炎、尿路感染
脳神経外科	1	7	脳梗塞
合計	5	278	

⑤ 肥満状況

	男	女	合 計
18.5未満（やせ）	4	1	5
18.5以上～25未満（正常）	28	15	43
25以上～30未満（肥満1）	9	3	12

30以上～35未満（肥満2）		2	2
35以上（肥満3）			
合計	41	21	62

・BMIの数値は日本肥満学会による判定基準を基にした計算式で算出したものであり、内臓脂肪量とは関係ない。

$$BMI = \text{体重 (kg)} \div (\text{身長 (m)} \times \text{身長 (m)})$$

(4) 利用者の権利擁護の推進

相談の受付は本人からの申し出と施設内の意見箱から、毎月1回、第三者委員3人の輪番による体制としている。

平成30年度苦情解決協議会は、前期を平成30年10月24日、後期を平成31年1月30日に実施し、利用者代表、保護者代表出席のもと、事例の内容を協議した。

今年度は、苦情相談日でのさつき寮利用者からの苦情相談は無かった。また、障害者虐待防止法に準拠した「なつどまり虐待防止規程」における事案も無かった。

(5) 地域交流

① 小中学校・高等学校との交流を実施

日時	内容	利用者数	引率者数
5月12日	西平内中学校運動会	11人	3人
5月26日	山口小学校運動会	10人	3人

② 地域への奉仕活動の充実

4月21日 平内町役場が主催する夏泊半島の道路のゴミ拾いに参加した。

10月26日 平内町商工会が主催する平内町民文化祭準備に参加した。

(6) 利用者への安全確保

利用者の安全確保及び事故発生時の迅速な対応を図るために、支援会議等で検討するとともに利用者の事故防止に努めた。

<アクシデントレポートの提出状況>

事故内容		件数
医療関係	急病（救急車搬送等）	2
	誤飲・誤嚥	2
	誤与薬	14
事故関係	転倒・衝突（通院・入院）	
	転倒・衝突	
	その他	
介護関係	転倒・衝突（通院・入院）	7
	歩行不安定による転倒	34
外出関係	無断外出（敷地外）	
	集団離脱（敷地内）	2

利用者関係	他害・器物破損	2
その他	打撲・自傷・擦り傷	5
合計		68

(7) 家族との連携強化

① なつどまり育成会との連携強化

6月17日の面会日に育成会の総会を行った。また、11月18日の面会日には、なつどまり研究発表会を開き、保護者へ支援の状況を発表した。

② 家族への情報提供の充実

面会日の通知とともに、さつき寮通信（各ホーム主担により作成）にて生活環境の様子を写真や文章で伝えてきた。また、毎月ケース担当から利用者さんの保護者へ近況をお知らせするとともに、状況変化等の際には随時連絡を行った。

(8) 職員研修

なつどまり内での学習会や事業団事務局が主催する法人内研修、県内外の研修等に参加し、施設職員として必要な知識を習得し、障害者への理解向上に努めた。

また、なつどまり研究発表会では、さつき寮の研究事例を発表した。

(9) 行事の実施状況

(平成30年)	
4月11日	健康診断
4月21日	平内町清掃ボランティア
4月30日	花見会
5月12日	西平内中学校運動会
5月16日	結核検診
5月26日	ボランティアサークル希望の会慰問、山口小学校運動会
6月7日	消防訓練
6月17日	なつどまり育成会総会
6月23日	茂浦漁港地引網体験交流会、カラオケ大会
6月29日	歯科検診
7月6日	歯科検診
7月30日	なつどまり夏まつり
8月1日	浅虫花火大会
8月7日	青森ねぶた観覧
8月11日	夏季一時帰省（～19日）
8月13日	バーベキュー大会
8月14日	ケーキ作り
8月15日	納涼会、平内町流し踊り
8月17日	ビデオ上映
8月26日	青森県障害者スポーツ大会（陸上）
8月31日	地域防災懇談会
9月1日	秋の大掃除

9月 4日	乳癌検診
9月 8日	レクリエーション大会、地域防災協力隊訓練
9月13日	胃癌検診
9月16日	青森県障害者スポーツ大会（ボーリング競技）
9月19日	一泊旅行（函館方面）
9月22日	旧館大掃除
9月29日	県庁生協展示会
10月 4日	日帰り旅行（西目屋村方面）
10月14日	さつき寮祭
10月17日	健康診断
10月30日	一泊旅行（八戸方面）
11月13日	インフルエンザ予防接種
11月14日	日帰り旅行（八戸方面）
11月18日	研究発表会
12月 1日	忘年会
12月15日	冬の大掃除
12月22日	クリスマス会
12月28日	冬季一時帰省（～1月6日）
12月31日	年越し会
（平成31年）	
元旦	お楽しみ会
1月 2日	カラオケ大会
1月10日	餅会
1月12日	カラオケ大会
1月19日	ホットケーキ調理実習
1月26日	さつき寮紅白歌合戦
2月 2日	節分集会
2月13日	防災訓練
3月 8日	夜越山洋ランまつり観覧
3月 9日	県庁生協展示会
3月16日	日中活動班慰労会
3月23日	大掃除

(10) 工賃支給状況

生活介護班活動に従事した利用者全員を対象に、「工賃支給要綱」を定め工賃を支給した。（11月・3月は一時金も支給）

(単位:円)

項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
生活介護工賃	246,160	141,170	140,140	141,460	128,450	118,290	118,290	131,460
支給者数	63	63	63	63	62	62	62	62
項目/月	上期一時金	12月	1月	2月	3月	下期一時金	合計	月平均
生活介護工賃	343,560	127,800	196,710	172,790	207,390	713,240	2,926,910	3,301
支給者数	62	62	64	64	64	65	881	

IV 短期入所事業さつき寮

1 概況

自宅で介護する人が病気の場合などに、短期間、夜間も含め施設で入浴、排泄、食事の介護等を行う。

2 事業の実施状況

平成30年度は利用が無かった。

V 指定共同生活援助（介護サービス包括型）事業所

障害者総合福祉センターなつどまり「スワンハイム」

1 概況

利用者の意思と人権を尊重しながら、自立した地域生活を営むことができるように、計画に基づいたサービスの提供に努め、市町村、関係機関等との連携はもとより、八甲学園サンハウスをはじめとする「あおもりグループホーム連絡協議会」との情報共有並びに支援環境の整備等を行い、安定した事業の運営を図った。

平成30年度は、利用者の社会生活向上と地域生活における交流を推進しながら、障害の多様化と高齢化に伴う認知機能の低下、更には消防法改正や建築基準法に適合した安全な住居のため、平成31年4月1日からの定員変更に伴い、4棟あった建物を3棟とすることにした。

2 職員の状況

(平成31年3月31日現在)

職人 男女別	職人				計
	管理者	サービス管理責任者	生活支援員	世話人	
男	(1)	(1)	1	0	2
女	0	0	1	8	9
計	(1)	(1)	2	8	11

() は他事業管理者兼務

3 重点事項の取組状況

(1) 新規グループホームの運営開始とそれに伴う第3スワンハイム運営終了の申請登録等を迅速・適正に実施する

- ① 新規グループホームとして重度利用者対応の物件を民間企業に建設してもらい賃貸借する予定で前年度から交渉してきたが、家賃の高騰等で折り合いがつかず、計画は年度途中で廃止となった。
- ② 老朽化していた第3スワンハイムは滞りなく、運営終了の申請登録、原状復帰を適正に実施した。

(2) 利用契約初頭の見直しをはじめ、文言と実態の整合調整を行う。

新年度の実態にあった、文言の整合調整を見直し、実施した。

(3) 変化への対応として、利用者の心的フォローと各種微調整を行う。

年度中途の重点事項(1)の変更により、入居移動が発生したため、利用者の意思を慎重に確認したうえで、利用者の心的フォローに努めた。

(4) 入居者の高齢化による変化を把握しつつ、新規利用者の受け入れ態勢を整備する。

年度中途の重点事項(1)の変更により、法人内全てのグループホームの再編を検討することとなり、待機者の数や利用者の高齢化・重度化及び、青森市内にある八甲学園のグループホームへの移行希望者等を勘案し、グループホーム事業を縮小することとなった。これに伴い定員は24人から18人とすることで準備を進めた。(定員変更：平成31年4月1日)

4 事業実施状況

平成31年3月31日、入居定員24人で共同生活援助利用者17人が利用している。

一般就労者5人、就労継続支援A型事業利用者3人、就労継続支援B型事業利用者14人が利用している。(第3スワンハイムを廃止して、平成31年度4月1日より、定員を変更。3棟のグループホーム定員18人となる)

利用状況一覧

(平成31年3月31日現在)

人 称	住 所	定員	利用者
スワンハイム	青森県東津軽郡平内町大字小湊字小湊72-2	6人	男6人
第3スワンハイム	青森県東津軽郡平内町大字小湊字小湊160-2	6人	※3月中に廃止
第5スワンハイム	青森県東津軽郡平内町大字小湊字小湊79-27	6人	男1人 女5人
第6スワンハイム	青森県東津軽郡平内町大字小湊字愛宕29-25	6人	男4人 女1人
計	4ヶ所	24人	17人

5 行事の実施状況

(平成 30 年)	
5 月 5 日	・お花見会 (残留者希望による)
5 月 12 日	・あおもりグループホーム連絡協議会総会
6 月 9 日	・旅行アンケート (日帰り A 班 o r 一泊 B 班)
6 月 17 日	・なつどまり育成会総会
7 月 7 日	・利用者部会 (あおもりグループホーム連絡協議会合同)
8 月中	・夏季一時帰省
9 月中	・定例個別支援計画モニタリング等会議
9/5~7	・防災訓練① (各グループホームにて)
9 月 22 日	・あおもりホット音楽祭(あおもりグループホーム連絡協議会合同)
10 月 5 日	・利用者 1 泊旅行 (函館方面)
10 月 27 日	・世話人部会 (あおもりグループホーム連絡協議会合同)
12 月 24 日	・忘年会
(平成 31 年)	・冬季一時帰省
1 月 11 日	・GH 新年会 : (浅虫 海扇閣)
2 月 20 日	・防災訓練② (不審者対応)
3 月中	・定例個別支援計画モニタリング等会議

VI 相談支援事業所なつどまり

1 概況

障害者及び障害児並びにその保護者一人ひとりの人権と意思を尊重し、利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、地域の特性や利用者の状況に応じた柔軟な相談支援を実施し、平成 31 年 3 月 31 日現在の計画相談件数は 219 である。

利用者の置かれている状況や環境等に応じた、利用者等の選択に基づいた適切な障害福祉サービス等を、多様な事業者から総合的かつ効率的に提供し、地域資源との連携及び地域資源の開発を図るとともに、各市町村等との連携を行った。

2 職員の状況

(平成 31 年 3 月 31 日現在)

職人 男女別	管 理 者	相談支援専門員	相談支援 補助員	計
男性	(1)	1	0	2
女性	0	0	(1)	1
計	(1)	1	(1)	3

() は他事業所職員兼務

3 事業の実施状況

(1) 障害種別利用者人数 (重複あり) (平成31年3月31日現在)

	実人員	知的障害	身体障害	精神障害	発達障害	重症心身障害	他
障害者	217	193	40	19	18	0	0
障害児	2	2	1	0	1	0	0
計	219	195	41	19	19	0	0

(2) 相談方法 (実人員に対して重複あり) (平成31年3月31日現在)

	訪問※1	来所	電話	同行	個別支援会議※2	計
件数	403	1	35	8	70	517

※1：行政（各市町村）指定のモニタリング聴取訪問（なつどまり内も含む）含む。

※2：相談となつどまり内の各寮との月1回の聴き取り会議も含む。

(3) 利用者別相談件数 (平成31年3月31日現在)

	しらかば寮	さつき寮※通所含む	スワンハイム	他施設、事業所等 (同法人含む)	計
平内町所管	5	8	4	57	74
他市町村	67	52	14	12	145

(4) 計画相談請求件数 (平成31年3月31日現在)

	サービス等利用計画	モニタリング報告書	計
請求件数	150	245	395

第5 青森県長寿社会振興センター

1 概況

少子高齢化の進展などから、本県の高齢化率は全国を上回る速さで進んでいるが、その約8割は介護保険を利用しない“元気な高齢者”である。特に、平成21年度から大量に定年退職した、いわゆる団塊の世代を含む元気な高齢者の生きがいと健康づくりの支援は、ますます重要な課題となっている。

平成30年度も引き続き、青森県長寿社会憲章の「すべての世代のための長寿社会」を目標に、高齢者一人ひとりが、心身ともに「すこやか」に「自立」し、住み慣れた地域において、安心して元気にいきいきと暮らせる社会づくりの実現を目指すことを基本理念に、生きがいと健康づくり及び仲間づくりに関する事業の積極的な展開を図った。

2 職員の状況

(平成31年3月31日現在)

職名 男女別	所長 (専務理事兼務)	推 進 課 長	事務員	計
男		1	1	2
女	1 (兼務1)		5	6
計	1 (兼務1)	1	6	8 (うち兼務1)

3 事業概要

(1) 高齢者のスポーツ、健康づくり及び地域活動等を推進する事業

① 全国健康福祉祭派遣事業

高齢者の健康増進及び生きがいの高揚を図るために開催される第31回全国健康福祉祭とやま大会に選手を派遣した。

ア 会 期 平成30年11月3日(土)～6日(火)
青森県選手団は、前泊のため2日(金)出発

イ 開催地 富山県(富山市ほか)

ウ 派遣内容 ◎スポーツ交流大会(9種目)
◎ふれあいスポーツ交流大会(8種目)
◎文化交流大会(2種目)
◎その他(シンポジウム、美術展への出品)

エ 派遣人員 111人(選手106人、役員5人)

オ 選考方法 前年度のシニアフェス上位入賞者より選考、当センターで選考が難しい種目は当該団体に推薦してもらい選手を決定した。

② 第20回あおもりシニアフェスティバル(県健康福祉祭)開催事業

県内高齢者のスポーツ、文化活動等の祭典として、健康増進、社会参加及び世代間交流の促進を図り、みんなが輝いている長寿社会づくりを目的として

開催した。

ア 総合開会式、文化イベント

- a 開催日 9月15日(土)
- b 会場 県民福祉プラザ
- c 内容 総合開会式及び高齢者知事顕彰状贈呈、文化イベント
- d 来場者数 約1,000人

イ スポーツイベント(14種目)

- a 開催日 9月23日(日)
- b 会場 新青森県総合運動公園、青森市スポーツ会館、青森ヤクルトスイミング、八甲田パノラマパークゴルフ、新町駅前商店街等
- c 内容 ラージボール卓球、テニス、ソフトテニス、ゲートボール、ペタンク、弓道、剣道、なぎなた、水泳、ターゲット・バードゴルフ、バウンドテニス、ウォークラリー、パーク・ゴルフ
- d 参加人数 705人
- e その他 10月7日(日)開催予定だったグラウンド・ゴルフ交流大会は悪天候により中止。

ウ 第9回冬季スポーツイベント

- a 開催日 カーリング：12月7日(金)、スキー：平成31年1月26日(土)
- b 会場 カーリング：青森市スポーツ会館
スキー：大鱈温泉スキー場
- c 内容 カーリング交流大会、アルペンスキー交流大会
- d 参加人数 カーリングは33人、スキーは26人参加

(2) 長寿な生活調査・発信事業

本県における長寿者(100歳以上高齢者等)及びその生活習慣・生活スタイル等を調査・収集し、広く県民に紹介・広報することにより、県民の健康意識の向上に役立てた。

① 委員会の設置

- ア 調査内容、掲載内容等について検討・調整するための委員会の設置
- イ 編集委13人(県内シニアリーダー、関係団体等)

② シニアライター基礎研修

- ア 開催日・会場・養成数

地区	開催日	会場	養成数
弘前市	平成30年7月11日(水)	弘前市総合学習センター	9人
青森市	平成30年7月13日(金)	県民福祉プラザ	12人
三沢市	平成30年7月18日(水)	三沢市総合社会福祉センター	9人
八戸市	平成30年7月19日(木)	八戸市総合福祉センター	7人

- イ 内 容 通信員を選任するための基礎研修
- ③ 調査実施 インタビュー、アンケート方式で実施
- ④ シニアライターフォローアップ研修
- ア 開催日・会場・参加数

地 区	開 催 日	会 場	参加数
弘前市	平成31年2月6日(水)	弘前市総合学習センター	12人
青森市	平成31年2月8日(金)	県民福祉プラザ	10人
三沢市	平成31年2月12日(火)	三沢市総合社会福祉センター	9人
八戸市	平成31年2月20日(水)	八戸市総合福祉会館	8人

- イ 内 容 事例発表・取材への第一歩
- ⑤ 県民への発信・広報等
- ア 機関誌「あすなる倶楽部」の発行(年4回 4,500部)
- イ ホームページへの掲載
- ⑥ ホームページ及びブログの運営
- ア 内 容 当センターの紹介、事業の紹介、機関誌の紹介等
- イ アドレス <http://www.choju-aomori.or.jp>
- ウ ブログの運営
- ⑦ 広報活動
- 当センターの事業内容等について、広く県民にPRするため、パンフレット等を配布(配布部数 5,000部)
- (3) 高齢者の社会活動を振興するための指導者等養成事業
- ① 青森シニアカレッジ事業(公募事業)
- 高齢者に体系的な学習の場を提供することによって、生きがいのある生活基盤の確立と健康の保持・増進に役立てるとともに、地域活動の担い手を養成することを目的とする。
- ア 学校企画運営委員会
- a 開催回数 随時
- b 委員人数 10人
- イ シニアカレッジ実施
- a 開催場所 県民福祉プラザ
- b 開催回数 18回、1日の時間割
- 10:00~10:30 ホームルーム
- 10:30~12:00、13:00~14:30 の2時限
- c 学習分野 一般教養、健康と生活、地域と歴史文化、クラブ活動等
- d 受講生 170人(一般教養、地域活動実践、通信教養)
- ウ カレッジ祭実施
- 受講生による自主的な活動として、実行委員会を開催し実施した。
- ◎平成30年10月16日(火)

エ 修学旅行の実施

- a 行き先 長野県、富山県
- b 期間 平成30年8月29日(水)～9月1日(土) 3泊4日
- c 参加者 24人(受講21人、事務局3人)
- d 内容 受講生の交流と世界遺産等を見学し学習意欲高める。

オ 通信教養コース「あおもり長寿セミナー」

- a 放送媒体 RAB青森放送
- b 放送回数 年間12回(毎月最終土曜日6時30分から30分間)
- c 放送内容 シニアカレッジ講師による健康・生きがいづくりに関わる講義

(5) 元気なシニア総合サポート事業(自主事業)

仲間づくり支援相談員(センター職員が兼務)を配置して適切な指導・助言を行うほか、健康づくり活動等を行うサークルの情報収集及び提供を行った。

(6) 介護予防事業(自主事業)

市町村から受託し、高齢者が要介護状態もしくは要支援状態となることの予防を目的として行うものである。単に運動機能や栄養状態など、個々の心身の状況等の改善のみを目指すものではなく、個々の高齢者が自立した日常生活を営むことができるよう支援した。

これまでも市町村へ情報発信(介護予防事業パンフレット・介護予防の内容の機関誌・高齢者の生きがい健康づくり事業の効果等周知)し連携を図ってきたが、継続して情報交換した。また、講師派遣等を通して介護予防の必要性の普及・啓発を図った。

- ① 受託先 五所川原市、大鰐町
- ② 回数 五所川原市50回(五所川原・金木・市浦)
大鰐町75回(大鰐町は介護予防一次予防事業49回、通称型Cサービス事業26回)
- ③ 内容 運動機能向上、栄養改善、口腔ケア、認知症予防、閉じこもり防止、その他学習療法による脳トレ、ニュースポーツや軽スポーツ等の通所型介護予防事業。

また、一般財団法人長寿社会開発センターで全国に啓発・普及している「ふまねっと運動(歩行機能や認知症機能の改善)」を取り入れ事業を実施した。

(7) 「あすなろ遊学の旅」事業

当センターが組織化した高齢者自主活動組織「あすなろ友の会」の幹事会事業である「あすなろ遊学の旅」事業を実施した。

- ① 事業内容 合同忘年会等
開催日：平成30年10月11日(水)～12日(木)(1泊2日)
場所：秋田県鹿角市
参加者：50人

② その他 あすなろ友の会は、現在約700人の会員がいる。

(8) その他

① 介護予防指導士2人による介護予防教室の普及

② 介護予防指導士等の講習会へ参加

③ エイジレス・ライフ実践者賞推薦

④ 全国明るい長寿社会づくり連絡協議会研修にて、「広報誌・機関誌等における課題と方向性について」というテーマで事例発表を行った。

第6 青森県発達障害者支援センター

1 概況

当センターは、平成17年12月1日に現在の障害児入所施設八甲学園の附置施設として開設し13年目を迎えた。平成30年度も、青森県発達障害者支援センター「ステップ」の理念『繋ぐ・集う・育つ』をモットーに、発達障害のある方が地域で安心して自分らしい生活が送れるように、地域の多様な関係機関と連携・協働しながら本人とその家族を支援するとともに、関わる皆さんを応援し、地域における発達障害児者支援体制の充実を目指した。

国の発達障害支援施策や、昨今の発達障害に関する情報、最新の知見に対して常に把握するように努め、当県の課題やニーズと照合しながら、事業構成を検討し実施してきた。

発達障害者支援センター運営事業の4つの柱である「相談支援」「発達支援」「就労支援」「普及啓発・研修」を軸に、県内市町村の支援環境の整備を支援するとともに、「青森県発達障害者支援体制促進事業」「青森県発達障害者支援体制整備事業」による地域で発達障害のある方やその家族を支援するリーダーやコーディネーターとなる人材の育成と地域における支援の拠点作りに取り組んだ。発達障害児者支援に関する多様なテーマでの研修会を29回開催し、県内の医療従事者を主な対象に、発達障害対応力の向上を目的とした研修会や、アセスメントに関する知識、技術向上を目指したアセスメント研修会、顕在化しにくい発達障害の1つである発達性協調運動障害に関する研修会、精神保健衛生に関する研修会等を実施した。

また、県内全域を対象とした「青森県発達障害者支援フォーラム」では、約200人の受講があり、医療、保健、教育、福祉、労働、ご家族、一般等、多様な職種及び地域の方が参加し、発達障害に関する最新の知見を共有することができた。

その他、県内の遠隔地を対象とした「青森県発達障害地域連携強化事業」では、下北地域（大間町、東通村）、東青地域（蓬田村）で、各町村と協働で研修会を開催し、発達障害について、地域の方々に正しく理解してもらう普及啓発を行った。併せて、機関訪問支援、個別ケース会議、個別相談会等を実施し、地域の支援者に対し、専門的な知見から必要なアドバイス等を行い、地域の相談支援体制の整備等、遠隔地域との連携を促進することができた。

遠隔地での研修事業等の開催後、町が運営の中心となり家族会を発足する等、地域に根差した支援へと至る効果が確認されている。家族支援の充実を目的に、ペアレントメンター養成事業、ペアレント・トレーニング事業、家族連続講座、ペアレントメンターによる傾聴事業等を実施した。各事業とも多数の参加があり、家族が発達障害について情報を得ること、ピアサポートの推進等、家族が孤立しない体制作りに努めた。

その他、県内発達障害者支援センターの中核的な役割として、他センターとの協働、厚生労働省社会援護局障害児・発達障害者支援室や北海道東北ブロックの各発達障害者支援センターをはじめ、全国の発達障害者支援センター等との情報交換及び連

携に取り組む等、有機的なネットワーク構築に努めた。

県内市町村の健診事業への職員派遣、保育所・関係福祉施設・学校等への訪問支援、機関コンサルテーション、研修講師の派遣の依頼が高まり、積極的に対応した。

年4回（東青地域2回、下北地域2回）、青森県発達障害者支援連絡協議会を開催し、医療、保健、福祉、教育、労働、警察、市町村、親の会等、各関係機関等との連携と県内各地域の課題の共有を図った。明確になった地域の課題に対して、次年度の当センターの事業に反映する等、建設的な取組を継続した。

2 職員の状況

(平成31年3月31日現在)

職名 男女別	センター長	主任 支援員	副主任 支援員	支援員	計
男			1		1
女	1	1		2	4
計	1	1	1	2	5

3 事業の実施状況

(1) 実施状況の総括

事業内容			実績
1 発達障害児（者）及びその家族等に対する相談支援・発達支援		実支援人員	677人
		延支援件数	962件
2 発達障害児（者）に対する就労支援		実支援人員	149人
		延支援件数	259件
3 関係施設及び関係機関に対する普及啓発及び研修	a. センター主催又は共催で企画した研修	実施回数	29回
		延参加人数	1,139人
	b. 外部から講師依頼を受けた研修（講師派遣）	実施回数	64回
		延参加人数	3,632人
	c. 教育関係者との合同研修会	実施回数	14回
		延参加人数	1,299人
4 関係施設・関係機関等の連携	a. 連絡協議会開催回数	実施回数	4回
	b. 調整会議	実施回数	19回
	c. 機関コンサルテーション	実施件数	44回
	d. 障害者総合福祉法第89条協議会等への参加状況	参加回数	5回

	e. 他の協議会への参加状況	参加回数	16回
5 地域住民等に対する普及啓発	地域住民向け研修会の開催等	実施回数	5回
6 職員の研修派遣状況		参加回数	29回

第7 ライフサポートあおば

1 概況

ライフサポートあおばは、知的障害や発達障害またはその疑いのある児童が地域で当たり前に生活できることを目指し、現在は桜川・千刈・松森地区にて3つの障害児通所支援事業と1つの委託事業等を運営している。実施事業は、以下のとおりである。

- (1) デイサービスセンターあおば（青森市桜川地区）
児童発達支援事業…未就学児童への通所支援
放課後等デイサービス事業…就学児童への通所支援（発達障害児向け）
保育所等訪問支援事業…保育所等へ出向いての支援・助言等（個別給付）
- (2) デイサービスセンターすこやか（青森市千刈地区）
放課後等デイサービス事業…就学児童への通所支援（主に小学・中学生）
- (3) チャレンジサポートすこやか（青森市松森地区）
放課後等デイサービス事業…就学児童への通所支援（主に中学・高校生）
- (4) 障害児等療育支援事業（青森市からの委託契約）
訪問相談・外来相談・施設支援（幼稚園・保育園・学校・福祉施設等）
- (5) すこやか生活塾
独自の法人自主事業…八甲学園親子療育との連携

2 重点事項の実施状況

- (1) 個々の特性に配慮した個別支援計画の作成と実施
発達及び障害特性についてのアセスメントシートを用い、新たな課題や生活環境を考慮してモニタリング会議・ケースカンファレンスを実施。個々の特性を確認し、周知・確認を行った。
- (2) 顧客満足・職員満足・経営満足の維持向上による安定した経営基盤の構築
利用満足度調査、放課後等デイサービスガイドライン、福祉サービスの質の評価（自己評価）の集計結果を確認した。職員面談などを通じ、離職率が前年度よりも低下した。事業所ごとの収入及び拠点における収支状況について運営会議にて情報提供を行い、改善への取り組みを検討した。長年懸案事項であったライフサポートあおば本体物件を移転させ、家賃支出を削減した。
- (3) 当法人内外の機関との協働体制と人材育成の推進（研修協力含む）
法人内実地研修へ積極的に職員派遣するなど（対象者18人中13人参加）、他事業所への移行支援や引継ぎ、各種ケースカンファレンス参加によって、他機関と協働する機会を用いて人材育成にあたった。この他、他機関からの依頼による講師・講演活動を年間46回実施した。
- (4) 人材育成・確保のためのスーパービジョン体系の構築（チャートの作成）
人材育成・確保のためのスーパービジョン体制について、マニュアル及びチャートを作成し、研修機会の意識付けを行った。
- (5) 地域・関係機関との交流機会の確保（地域に向けた広報活動の実施など）

10月に地域交流会を開催予定だったが、ライフサポートあおば本体物件の移転時期と重なったため、中止した。

(6) 保護者・近隣地域向けイベントの実施

6月に初の試みとして、保護者懇談会を実施し、事業所の説明及び意見収集を行った。

(7) 3事業所共通の情報共有と連携体制の強化及び各種マニュアル整備と周知

3事業所間での実地研修（対象者17人中14人参加）を実施し、運営会議では各事業所の近況報告を行った。また、3事業所間の文書回覧ルールや共通マニュアルを整備した。また、職員の研修や休暇取得などに応じて相互の業務応援を行った。

(8) リスクマネジメントについての検討機会の設定

毎月の支援会議内において、インシデント及びアクシデントについて報告し、再発防止策等について検討した。

3 職員の状況

(平成31年3月31日現在)

センター長	主任事務員	主任支援員	副主任支援員	支援員	計
1	1	1	1	15	19

4 職員研修

(1) 職員個々への「人材育成計画」を作成。OJT・スーパービジョンを計画的に実施し、職員の育成に努める

ライフサポートあおば独自で作成した様式に、「職員に求めるもの」を踏まえた職員の個人目標と職場における育成計画を記載し、面談の際、目標とその達成度の確認を行った。OJT・スーパービジョンと並行し、事業所の実態に合わせて内部研修を実施した。

(2) 事業推進に必要な技術・資格等の取得に努める

サービス提供に必要な技術研修、サービス管理責任者研修等への派遣を行った。

(3) 外部研修会への参加を計画的に実施する（虐待・リスクマネジメント含む）

県内で行われる権利擁護・リスクマネジメント研修会等への参加を計画的に実施した。

(4) 研修内容の復命機会設定による情報の共有

復命書の全職員回覧のほか、毎月の支援会議内にて、内部への伝達研修を行った。

5 行事予定

ライフサポートあおば本体物件の移転が追加となり、9月から12月の予定が調整されたものの、そのほかは年間行事予定に沿って概ね行事を実施した。

6 健康管理

毎月の運営会議・支援会議など、その都度感染予防及び健康管理について指導・マニュアルの徹底を促した。

7 安全・防災管理

各事業所で毎月1回避難訓練を実施した。

8 ボランティア・実習等の受入れ

ボランティア2人、実習生12人を受入れた。

9 地域との連携

共生社会・インクルーシブ社会の実現に向け、他団体との協働を含め、市内の大学2校、高校1校にて「多様性」「社会的包摂」に向けた講義を実施した。また、近隣地域の清掃活動などを定期的実施した。

I 児童デイサービスあおば

1 概況

発達支援を必要とする児童（主に発達障害児）を対象に、本人のニーズと家族の要望から、本人の特性と発達段階に沿った個別支援計画を作成し、日常生活において自ら気づき、行動できるための支援を行った。

児童発達支援事業では、集団活動として月3～4回のイベントを設定し、季節の行事として、プール活動、園芸、豆まき、運動会、卒園式等を行った。並行して、個々のアセスメントを行い、それぞれの児童の発達課題に合わせたコミュニケーション指導、社会性の指導を行った。

放課後等デイサービスでは、個々の児童に応じた個別支援計画を作成し、1対1の個別セッションにて、支援を提供した。（コミュニケーション・感情のコントロール・ソーシャルスキルの習得・自己認知など。）

児童発達支援・放課後等デイサービスのいずれも、他療育機関及び関係機関への訪問等を通して、関わり方等について提案し、協働・連携を行った。（関係機関連携加算・保育所等訪問支援事業の活用。）

尚、12月3日に桜川地区へ移転した。

2 利用状況

(平成31年3月31日現在)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
児童発達契約者数	6	8	8	8	8	8	8	8	8	8	9	10	
営業日数	17	21	21	21	21	18	22	16	19	19	19	20	234
延べ利用人数	93	151	161	157	130	120	165	118	137	125	113	141	1,611
放課後等デイ契約者数	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	
営業日数	17	21	21	21	21	18	22	16	19	19	19	15	229
延べ利用人数	21	24	21	42	38	32	38	29	36	38	37	27	383
保育所訪問契約者数	14	14	14	15	15	15	15	14	14	14	14	14	
延べ利用人数	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	4
延べ利用人数合計	115	175	183	199	168	152	203	147	173	164	150	169	1,998

Ⅱ 児童デイサービス事業すこやか

1 概況

青森市内に住む知的障害、発達障害を有する小・中学生に対し、生活に必要なスキルを習得するための支援を実践した。

契約者の内訳は（平成31年3月現在）、総契約者30人中、小学生が19人（63.3%）、中学生が11人（36.7%）、青森第二養護学校在籍児が21人（70%）、特別支援学級等在籍児が9人（30%）であった。

本人のニーズに合った支援を実施するにあたり、事業所内での面談回数を増やし、この他に、家庭・学校・関係機関との連携を行った。

平成30年度は、9人の児童保護者、関係機関から新規利用希望の相談を受け、見学の対応などを行った。

リスクマネジメントや虐待防止に関しては、職員を研修に参加させるとともに、毎月の会議で、実際のインシデント・アクシデントの報告書を基に検討する機会を設けた。

平成29年度同様、チャレンジサポートすこやかとの交流研修の機会等を通じた連携強化を図った。また、職場内においては、毎月の職員研修、自己啓発（SD）を中心とした研修の他、法人内実地研修や様々な研修・講演会への参加も行った。

標準的な業務内容の見直しとして、業務マニュアルの見直しを行った。

実習生・職場体験事業の受入は12人（高校生、大学生、一般）、見学受入は33人実施し、支援技術やサービス内容の普及啓発に努めた。

地域との関わりとして、週1回（雨天中止）、事業所周辺の清掃活動等を実施した。

2 利用状況

（平成31年3月31日現在）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
契約者数	30	31	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	
営業日数	20	21	21	21	23	18	22	21	19	19	19	20	244
登校日利用	168	231	231	160	83	179	226	230	162	140	185	162	2,157
学休日利用	68	14	1	79	148	18	20		48	61	8	55	520
延べ利用人数	236	245	232	239	231	197	246	230	210	201	193	217	2,677

Ⅲ チャレンジサポートすこやか

1 概況

青森市内に住む知的障害、発達障害を有する中学・高校生に対し、成人期の生活に必要なスキルを習得するための支援を実践した。

契約者の内訳は（平成31年3月現在）、総契約者26人中、中学生が7人（27%）、高校生が19人（73%）、青森第二養護学校在籍児が20人（77%）、青森第一高等養護学校在籍児が6人（23%）であった。

年度末には高卒児の移行支援会議に参加した（2ケース）。

成人期の生活に必要なと想定する作業・活動・余暇の提供種目を増やした。

本人のニーズに合った支援を実施するにあたり、事業所内での面談の他に、家庭・学校との連携を行った。

ボランティア受入は実人数2人、見学受入は16人実施し、サービス内容の普及啓発に努めた。

職場内におけるケースカンファレンスやスーパービジョン体制の活用、職員の自己啓発（SD）を中心とした職員研修のほか、他事業所の見学・実地研修や研修会への参加も行った。

2 利用状況

(平成31年3月31日現在)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
契約者数	25	25	25	25	25	25	25	26	26	26	26	26	
営業日数	20	21	21	21	23	18	22	21	19	19	19	20	244
登校日利用	171	240	214	157	99	169	219	226	159	148	219	149	2,170
学休日利用	55	10	2	58	138	20	10	1	55	69	5	88	511
延べ利用人数	226	250	216	215	237	189	229	227	214	217	224	237	2,681

IV 生活塾事業

1 概況

平成30年度は、八甲学園デイサービスセンターはっこうで実施する「親子療育」の受給者証未取得者のサービス提供を当事業で実施することとした。

2 利用状況

希望者がなく実績はなかった。

V 障害児等療育支援事業

1 概況

青森市より「障害児等療育支援事業」の委託を受け、ライフサポートあおばにて担当した。平成30年度は青森市こども支援センターからの依頼は減ったこと、ライフサポートあおば本体物件の移転に伴い受入件数を意図的に減らしたこともあり、実績数は減少したが、保育園・認定こども園等からの直接依頼は増えた。

2 利用状況

障害児等療育支援事業	延べ実績
(1) 訪問による療育指導	52件
(2) 外来による専門的な療育相談・指導	24件
(3) 療育技術の指導	71件

第8 就労サポートセンターさつき

1 概況

当事業所の理念である「地域社会と協調し、創造力豊かなサービスをとおして、働く喜びを分かち合います」に基づき、就労支援に特化した事業所として、就労移行支援事業、就労継続支援A型事業、就労継続支援B型事業及び就労定着支援事業を実施し、利用者が地域において自立した生活を送るための支援や一般就労に必要なスキル習得への支援を行い利用者の確保に努力した。

生産活動は、農産・請負班、リサイクル班、給食班の3班体制で実施した。特に、農産・請負班の水稻事業では、収穫量は約40トン（約670俵）を超え、昨年より22トン（約370俵）を大幅に上回った。このうち、主力品種である「まっしぐら」は、10a当（1,000㎡・1反）9.4俵を収穫した。平成29年度まで設置していた清掃班は、なつどまり清掃作業を廃止したため農産・請負班に統合し、請負作業の一環として当事業所の清掃及び漁業資材の加工業務に取り組んだ。リサイクル班は、回収場所の増に伴い、トラックとダンプによる2台体制で回収することとした結果、収入は増加したものの幌がついていないダンプで回収できる場所が限られているため、効率性の悪さが顕在化した。これを改善するため、ダンプのリース期間が令和元年秋頃に終了することを見込んで、平成31年2月に前倒しで幌付きトラックのリースを開始し、回収経路を再構築した結果、効率性の悪さは改善された。給食班は、一定の収入を確保できていたが、事業所全体の利用者数に基づく配置職員数が超過していることから、平成30年度をもって当面の間休止することとした。

就労支援事業収入全体では、清掃班におけるなつどまり清掃を廃止したことが影響し減少してはいるが、その他の経費節減により利用者の工賃は増額することができた。

地域貢献等については、近隣住民との積極的な交流活動をはじめ、平内町の地場産業に貢献する作業を生産活動に組み入れ地域と一体となり事業を展開した。

2 職員の状況

（平成31年3月31日現在）

所長	副主任 支援員	支援員	事務員	調理員	運転員	合計
(1)	1	6	1	2	5	15

※所長は事務局長が兼務しているため、合計には含んでいない。

3 利用者の状況

(平成31年3月31日現在)

区 分	就労移行 支援事業	就労継続支援 B 型 事 業	就労継続支援 A 型 事 業	就労定着 支援事業	合 計
定 員	6	15	10		31
年度当初 利用者数	7 (男5・女2)	15 (男11・女4)	5 (男5・女0)	2 (男2・女0)	29 (男23・女6)
年度末 利用者数	6 (男4・女2)	15 (男11・女4)	4 (男4・女0)	3 (男3・女0)	28 (男22・女6)

平均年齢（平成30年度末）＝全体：37歳（男性：40歳・女性：37歳）

4 重点事項の実施状況

(1) 生産活動の安定

① 農産・請負班

水稻栽培を担当する職員のほかに農産班担当職員を1人配置し、水田作業に専念できるようにした結果、収穫量は平年ベースに復活した。班編成は、清掃班を農産・請負班に合併し、午後の作業時間に職員が柔軟に配置できるようにした。

② リサイクル班

回収経路を1.5系統とし、回収量を増やすことで収入増を図った。

③ 給食班

米粉を製粉する作業に時間を確保できなかったほか、通常の給食業務をとおした支援以外のデザートづくりに着手する時間を確保できなかった。

(2) スポーツ活動の推進

① 市民マラソンに参加したほか、開所日に新青森総合運動公園アリーナで開催されていた市民卓球大会を観戦した。

② 昼食を希望する方に対して、当事業所職員が調理する食事を提供した。また、糖質を制限した特別食を希望者に提供した。なお、献立作成にあたり、毎月開催する給食会議における利用者からの要望や、なつどまり管理栄養士の指導助言を反映させた。

(3) 利用者獲得のための活動促進

① 特別支援学校へのPR、行事参加及び実習生の全面受け入れ

卒業生の活躍ぶりを掲載した広報誌を学校へ郵送し在校生にPRした。特別支援学校に直接訪問し、進路担当教諭と情報交換したほか、学校主催の行事である運動会、学習発表会及び卒業式にはすべて出席し、実習希望者はすべて受け入れた。また、相談支援事業所の専門員の研修会において、事業所PRの時間を活用して事業所の紹介をした。

< 特別支援学校等 >

受入期間	人数	学 校 人
10月15日～10月19日 11月5日～11月16日	1 1	青森県立青森第二養護学校
6月18日～6月29日 10月2日～10月12日	2 3	青森県立青森第一高等養護学校
5月7日～5月18日 6月18日～6月29日 11月26日～12月7日	1 1 1	青森県立七戸養護学校
4月24日 5月8日～5月10日 2月20日～2月22日	1 1 2	一般

< 警察学校 >

受入期間	人数	機 関 人
6月12日	13	警察学校大卒課程
7月17日	14	警察学校高卒課程

② 情報発信

ホームページの更新を毎月実施することができなかつたため、更新の手順を見直すこととする。広報誌は例年どおり発行した。

③ 地域交流イベントへの参加案内

事業所の大運動会及び大収穫祭には、実習生とその保護者に案内して参加してもらうことができた。開所日の利用率は伸び悩んだが、契約者数に対する利用率は90%を達成できた。

④ ねむのき会館におけるスポーツ教室への協力

職員1人が中級障害者スポーツ指導員の資格を取得したほか、県障害者スポーツ大会には補助員として参加した。職員がボランティアで参加しているスポーツ教室の利用者1人が当事業所に実習を希望することとなった。

(4) 放課後子ども教室推進事業の特色化

① 旧小学校の建物及び敷地をフル活用したこども支援

通常は旧音楽室を使用しているが、定期的に体育館を活用して球技をしたり、グラウンドで遊具を活用したりした。

② 障害福祉サービスの機能を活用したこども支援

事業所のイベントである大運動会及び大収穫祭に参加した。

③ 集団支援が困難なこどもに対する専門的な支援

随時、法人内発達障害者支援センターの職員に訪問してもらい、必要な助言を得た。

(5) 利用者工賃の向上

① 農産請負班

水田管理の徹底により収穫量は平年ベースに回復したが、未作付水田の改修のため、畑作物には着手できなかった。また、請負作業は、事業所内清掃及び漁業資材加工業務を継続し、収入は増加した。

② リサイクル班

缶回収量を増やしたが、収入は約1割しかアップできなかった。

③ 給食班

食器洗いのほか盛り付け等へのステップをクリアすることができた。

(6) 地域貢献活動の実施

① 4月から10月までの月1回、だいすき海岸の清掃には職員3人が参加し、年1回の県道なつどまり線清掃奉仕の際は、茂浦地区内を清掃した。

② 平内町主催の「ほたて海道トンネルマラソン」開催にあたり、開会式会場及び休憩所として施設を開放した。

③ 当事業所行事「大運動会」及び「大収穫祭」に、地域住民の参加を呼びかけ交流を図った。

(7) 学校教育への協力

社会科見学を受けた実績はないが、地域の小学校との間で、次年度受入れること言質がとれた。

(8) 助成制度の活用

自己財源の不足により助成申請することができなかった。

5 事業の実施状況

(1) 事業概要

① 就労移行支援事業

一般就労を希望する方に、職場実習や一定期間の就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練等を行った。また、就職決定者に対しての定着支援は、ジョブコーチと連携しながら継続した。

期 間	人数	実習場所
2月13日	3	平内町立山村開発センター

② 就労継続支援A型事業

一般企業等での就労が困難な方に、雇用して就労する機会を提供するとともに、能力等の向上のために必要な訓練等を行った。

③ 就労継続支援B型事業

一般企業等での就労が困難な方に、就労する機会を提供するとともに、能力等の向上のために必要な訓練等を行った。

(2) 生産活動の売上状況

(円)

班 人	平成30年度(A)	平成29年度(B)	前年比(A-B)
農産・請負班	9,974,179	9,203,491	770,688
清掃班	0	2,353,300	△2,353,300

リサイクル班	7,590,176	6,947,880	642,296
給食班	2,606,400	2,642,800	△36,400
計	20,170,755	21,147,471	△976,716

(3) 工賃及び賃金の支給状況

区分	就労移行支援		就労継続支援B型		就労継続支援A型	
	延人数 (人)	支給金額 (円)	延人数 (人)	支給金額 (円)	延人数 (人)	支給金額 (円)
年間合計	1,528	843,080	3,222	2,512,130	1,312	5,400,079
1人当たり 月平均額		11,517		18,018		79,412.9

(4) 就職に向けた取組

職場実習等を通じて、一般就労に向けて積極的に取組んだ結果、1人が一般企業に採用された。採用後は、関係機関と連携し就労定着に関わった。

(5) 余暇支援等（行事関係）

	レクリエーション（土日開所）	地域交流活動等
4月	◎昭和大仏見学<行き先不明謎のツアー>（14日） ◎夏泊清掃・保護者会（22日）	◎塩釜神社春祭り（15日） ◎だいすき海岸運営協議会（17日）
5月	◎平内クロスカントリー大会（3日） ◎走れメロスマラソン（27日）	◎だいすき海岸清掃奉仕（1日）
6月	◎BBQ体験（23日）	◎だいすき海岸清掃奉仕（1日）
7月	◎地引網体験（14日） ◎浅虫水族館見学（28日）	◎だいすき海岸清掃奉仕（1日） ◎夏泊ほたて海道トンネルマラソン施設開放（22日）
8月	◎ボウリング大会（4日） ◎大運動会（18日） ◎県障害者スポーツ大会（26日）	◎だいすき海岸清掃奉仕（1日） ◎だいすき海岸夜間巡視（1日）
9月	◎AWボウリング大会（9日） ◎秋のBBQ体験（15日） ◎ほっと音楽祭見学（22日） ◎青森県立美術館見学（29日）	◎だいすき海岸清掃奉仕（1日）
10月	◎夢の森収穫祭参加（6日）	◎だいすき海岸清掃奉仕（1日） ◎塩釜神社秋祭り（13日）
11月	◎大収穫祭（10日）	◎だいすき海岸清掃奉仕（1日） ◎地域住民との意見交換会（8日）
12月	◎二養バザー見学（1日） ◎買い物ツアー（8日） ◎利用者忘年会（15日） ◎年末大掃除（22日）	

1月	◎初詣（5日） ◎AWボウリング大会（12日） ◎調理実習・焼きそば編（19日） ◎卓球大会（26日）	◎茂浦町内会総会（16日） ◎茂浦青年団権現舞訪問（17日）
2月	◎サボテン園・洋ラン園見学（16日）	
3月	◎作業体験（2日） ◎ボウリング大会（9日） ◎歓送迎会（23日）	

(6) 送迎体制

コース人	行き先
平内町（野辺地）	小湊、清水川、野辺地
平内町（小豆沢）	小湊、小豆沢、障害者総合福祉センターなつどまり
青森市内（山通り）	観光通り、筒井、戸山
青森市内（浜通り）	青森駅、浪打、八重田

(7) ボランティアの受入

今年度は実績なし

(8) 苦情解決事業等

毎月1回、第三者委員（4人）と面談する機会を設けたほか、随時相談を受けられる体制を整備した。なお、実施については虐待防止対応規定と連動し対応した。

区分	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	計（件）
受付件数	0	0	0	0	0
解決件数	0	0	0	0	0
繰越件数	0	0	0	0	0

(9) 健康管理

次亜塩素酸ナトリウム水溶液による施設内消毒を実施したほか、うがい薬によるうがいと手洗い及びアルコール消毒を利用者に励行し、また、感染症の流行期間においては、利用者に対して感染症の予防方法など説明するなどして注意を促し、感染の防止に努めた。

(10) 安全管理・防災対策

年2回（7月26日、1月21日）避難及び消火訓練を実施したほか、昨年度に引き続き、事業所敷地内、リサイクル作業場及び水稲耕作地においてクマ避け対策を施行、利用者の安全確保に努めた。

また、Jアラート等非常時の対応、虐待防止研修を実施し、予防対策に努めた。

(11) 所内会議等

会議人	回数
就労・生産支援会議	毎月1回
給食会議	毎月1回
事業所会議	毎月1回

(12) 職員研修関係

事業所内での勉強会や法人内他部署での実地研修をはじめ、県内外で実施する各種研修等に職員を派遣した。

また、支援技術や生産技術の向上を図るための専門的な研修にも積極的に派遣した。

(13) 広報関係

- ① パンフレット・事業概要作成配布
- ② 広報紙「でんでん」年3回発行配布
- ③ ホームページ開設
- ④ 物販活動（米：お米キャラクター「茂米しげべい」）

イベント名	会場	開催日
2018「青森の正直」商談会	産業会館	平成30年6月28日
プラザ管理室自主事業	県民福祉プラザ	平成30年10月22日、30日
工賃向上支援マッチング会	県民福祉プラザ	平成30年10月29日
農福連携マルシェ2018	マエダガーラモール	平成30年11月3日～4日
アピオあおもり秋祭り	アピオあおもり	平成30年11月11日

⑤ 見学者の積極的な受入

就活者、養護学校教諭・生徒

(14) 放課後子ども教室（平内町からの受託事業）の運営状況

- ① 営業日 毎週月～金曜日
- ② 営業時間 15:00～18:00
(但し、小学校長期休業期間は9:00～17:00)
- ③ 利用契約者 38人
- ④ サポーター 7人

【本年度の実績】

※上段：当年度 下段：前年度

区分	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
稼働日数 (A)	19	21	20	21	19	17	21	21	19	18	18	20	234
	19	20	21	20	21	19	21	20	20	19	18	21	239
延利用者数 (B)	185	172	159	230	234	155	199	196	209	156	114	154	2,163
	261	241	245	278	308	189	204	228	217	222	171	233	2,797
1日当たりの 平均利用者数 (B÷A)	10	8	8	11	12	9	9	9	11	9	6	8	9
	14	12	12	14	15	10	10	11	11	12	10	11	12

第9 特別養護老人ホームすこやか苑

1 概況

平成30年度は、すこやか苑基本理念の実現に向け、3つの基本方針「利用者一人ひとりの尊厳を尊重します。」「家族とのきずなを大切にします。」「地域とのつながりを大切にし、地域の高齢者福祉の拠点を目指します。」を定め、以下の重点事項4項目を掲げ施設運営を行った。

2 職員の状況

(平成31年3月31日現在)

職人	施設長	医師	生活相談員	看護職員	介護職員	介護支援専門員
人数	1	1(非常勤)	1	2	20 【21】※ 1	1
職人	栄養士	機能訓練指導員	事務員	専任当直員		計
人数	1	1	1	3		32

【備考】職員全般は、併設短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護の職員兼務。

※1・・・管理者・介護支援専門員は介護職員兼務のため【21】に含む。

3 入退所状況

入所		短期入所・介護予防短期入所	
定員	29人	定員	10人
平成30年度内延入所者数	36人	平成30年度内延利用者数	53人
平成30年度内退所者数	10人	平成30年度内延利用件数	691件
平成30年度末現在の入所者数	26人		

4 重点事項の実施状況

(1) ユニットケアの理念に基づいた個別支援の充実（生きがい活動支援の強化）

平成30年度は「生きがい活動」に焦点を当て、施設行事と利用者個人のそれぞれの面から取組みを行った。施設行事では「夏祭り」「創作クラブ」「すこやかカフェ」「アニマルセラピー体験会」を新設し「よろこび」「生きがい」につながる試みを行った。また、地域ボランティアとの関係作りを進めるとともに、家族が参加・協力しやすい体制を整えることで、家族との絆・施設理解が深まるよう努めた。

ユニットケア推進委員会を定期的を開催し（6回）、またユニットケアに関する研修会を実施することで、日々の生活の中での個別支援の強化を図った。

（2）利用者の人権・尊厳擁護の強化

虐待防止・身体拘束廃止委員会を毎月1回、苦情解決協議会を年4回実施し、苑内の体制強化を図った。また、高齢者虐待防止研修を2回実施するとともに、指針（マニュアル）の見直しを行い、職員への啓発と意識の向上を図った。虐待や身体拘束のケースは上がっていないが、疑われる類似実態の有無について毎月の会議等で検証を行った。

（3）看取りケア実施に向けた体制整備

看取りケア準備委員会を定期開催し、課題整理を進めたほか、苑内研修会等を行い、平成30年7月の実施を目標に取組んだ。しかし、看取り体制の構築（職員のメンタルケアと労務管理、看取り期間の応援体制、医療機関との連携強化、医療機器の購入、喀痰吸引等特定事業者登録と特定行為従事者の確保等）、職員の欠員状態の解消、医師や職員の統一した意識形成、家族への啓発と手続き等、解決できていない諸課題が多く実施には至らなかった。

そのため、平成30年度は①「緊急時の対応」の見直し②「看取り方針」の作成③協力医療機関の拡充④「喀痰吸引等特定事業所登録」の4つについて整備する体制整備期間とすることとし、11月に事業計画重点事項を一部変更した。④の喀痰吸引等事業者登録については実施できなかったため、次年度に持ち越しとした。

（4）実習生受入れ体制整備

実習受入れ要項を作成し、介護福祉士及び社会福祉士養成のための実習受入れ体制を整備した。平成30年度は、「青森県立保健大学1年生対象の社会福祉基礎実習Ⅰ（見学・体験実習）」4人、「義務教育教員免許志願者に対する介護体験」に弘前大学より3人、「介護労働実習」として介護安定センターより3人、「平成30年度介護実習Ⅱ—A」として明の星短期大学1年生男子1人の実習があった。

利用状況について、地域密着型は平均利用者数26.9人（定員29人）、平均介護度4.2、短期入所は平均利用者数8.5人（定員10人）であった。地域密着型における空床期間の短縮化に向けた効率的な受け入れ態勢の構築が課題となっている。

その他、職員の配置状況については4月の年度当初は人員を充たしていたものの、8月以降はほぼ欠員状態が続いた。その間は他の職種との協働や時間外労働等によって、サービスの提供については維持することはできたが、職員一人ひとりへの負担は増大することとなり、それが職員の疲弊、離職へとつながった。リスクマネジメントの観点からも、人材の確保と維持は当苑においても大きな課題であり、事務局とも連携し積極的な人材確保に向けた取り組みが必要である。

5 事業の実施状況

（1）年間行事

人 称	実施時期等	参加者数	備 考
花見ドライブ	4 / 25 ～ 27	21人	桜川まで桜見学を兼ねてドライブ
アニマルセラピー体験会	5 / 16	27人	アニマルセラピー協会による曲に合わせたドックダンスや動物との触れ合い
合浦公園散策（遠足）	5 / 23 24	23人	合浦公園までツツジやフジの花見学を兼ねてドライブ
芸能公演会	6 / 13 10 / 10	30人 25人	ボランティアサークル「希望の会」によるマジック・踊り・歌謡曲等を披露
高校生による演奏会	7 / 25	21人	高校生ボランティアによる演奏と楽器の説明
ねぶた団地見学	7 / 25 ～ 27	19人	ねぶた団地（アスパム）へ行き、作成中のねぶたを見学
ねぶた祭り観覧	8 / 2	4人	青森市より招待されたねぶた祭り観覧へ参加
夏祭り	8 / 19	36人	夏祭りで、浜館ねぶた同好会がねぶた運行し観覧
敬老会	9 / 12	31人	明の星幼稚園園児の訪問。合唱とお遊戯披露。施設より入居者に記念品贈呈
明の星幼稚園 レクリエーション	11 / 14	27人	幼稚園児による歌等の披露、入居者との触れ合い
新年会	1 / 16	26人	音楽体操やカルタ大会、合唱などのレクリエーション
家族連絡会	3 / 2	10家族	運営状況・アンケート結果報告、平成31年度運営推進委員・苦情解決協議会委員（家族代表）の選出、意見交換等
ユニット内行事：母の日会、父の日会、七夕会、買い物ドライブ、ハローウィンパーティー、クリスマス会、節分会、ひな祭り、すこやかカフェ等を各ユニットで開催。ほか、年2回大掃除実施			

(2) クラブ活動

人 称	実施時期等	参加者数	備 考
音楽体操クラブ	年1回	約15人	4/25

書道クラブ	月 1 回	各回 約 1 5 人	4/18、5/9、6/20、7/11、8/22 9/19、10/24、11/28、12/19、 1/30、2/27、3/27
創作クラブ	年 2 回	約 2 5 人	6/16、7/21

(3) 健康管理

内 容	実施時期等	対象者	備 考
バイタルチェック	入浴日 ほか随時	全利用者	体温・血圧・SPO2・一般状態の観察等
体重測定	毎月	全利用者	
配置医診察	毎週木曜日	全利用者	利用者の診察・薬の処方・検査や通院等の指示等
通院・往診	随時	通院が 必要な 利用者	(通院) 泌尿器科 33 人・内科 18 人 整形外科 15 人・救命救急 10 人 循環器内科 2 人・精神科 1 人 皮膚科 2 人・眼科 3 人 神経内科 11 人・血液内科 1 人 総合診療科 6 人・リウマチ科 9 人・外科 3 人・認知症外来 2 人 (往診) 歯科 91 人・認知症外来 11 人 ※延人数、短期入所利用者除く
口腔機能維持管理指導	月 2 回	看護 介護職員	歯科医・歯科衛生士による助言 指導
機能訓練	週 2 回程度	全利用者	機能訓練計画書による機能訓練 ※短期入所利用者除く
訪問理美容	第一・第三 水曜日ほか	1 5 4 人 ※延人数	4 月 15 人、5 月 14 人、6 月 8 人、7 月 10 人、8 月 19 人、 9 月 13 人、10 月 15 人、 11 月 18 人、12 月 11 人、 1 月 9 人、2 月 14 人、3 月 8 人

(4) ボランティアの受け入れ

内 容	実施時期等	参加者数	備 考
音楽体操クラブ補助	1 回	計 1 人	地域住民

書道クラブ補助	12回	計24人	地域住民 青森県立保健大学助教授
花見ドライブ付添	4/23	3人	家族、地域住民
合浦公園付添	5/22、 23	計2人	家族、地域住民
芸能公演会補助	6/11 10/10	計7人	地域住民 (株)クリーンサービス青森
ねぶた団地見学付添	7/23	3人	家族、地域住民
ねぶた観覧付添	8/2	1人	家族
夏祭り補助	8/19	1人	家族
新年会補助	1/16	1人	地域住民
上記ほかユニット内行事補助、洗濯畳みや古布の裁断（清拭布作り）、アニマルセラピー、花壇の整備など参加あり			

(5) 安全・防火管理

防災訓練（避難訓練）のほか、消防機器の法定点検・自主点検を実施した。

内 容	実施時期等	参加者数	備 考
防災訓練(夜間火災想定)	5/30	59人	職員26年度人、利用者33人
防災訓練(水害想定想定)	7/18	39人	職員24時間人、利用者15人
防災訓練(夜間火災想定)	10/27	72人	職員26人、利用者36人 地域防災協力隊10人

(6) 職員研修

外部研修や法人内研修へ職員を派遣したほか、苑内で次の研修会を実施した。

人 称	実施時期等	参加者数	備 考
高齢者虐待防止・身体拘束廃止に関する研修	4/25 12/4	計21人	高齢者虐待の定義、身体拘束廃止に向けて、事例検討など
救急処置（AED）研修	5/30 10/27	計29人	心配蘇生方法やAEDの使用方法など実技を通じた訓練、気道閉鎖（窒息）時の対応など
事故防止に係る研修	7/25 12/26	計28人	服薬・食事介助のリスクマネジメントについて

排泄介助（オムツ）研修	5/9、7/2・ 23、10/2 3、11/13	計36人	業者の営業担当より、排泄概 論、オムツの当て方について指 導
看取りに関する研修	6/20	13人	看取りへの具体的な方針や流れ の説明
感染症対策研修	6/27 10/31	計20人	食中毒や感染症予防策について 嘔吐時処理手順の確認
新任職員研修会	6/27 3/14	計8人	老人施設としての、基本的知識 を高める
口腔ケアに関する研修	8/8 2/13	計19人	外部講師（歯科衛生士）より、 高齢者の口腔ケアについて指導
伝達研修	11/14	9人	総合的ハラスメントの対策につ いて
平成30年度安生園・す こやか苑合同研究発表会	12/5	7人	安生園2件・すこやか苑3件の 研究発表会を実施

(7) 会議・各種委員会等

人 称	実施時期等	参加者数	備 考
全体会議	年12回	各回 約15人	施設長からの指示事項ほ か、協議伝達など
ユニットリーダー会議	年12回	各回7人	ユニットリーダーを中心 にユニット運営について 協議
ユニット会議	毎月1回 ※ユニットごと に開催	各回5人	各ユニット内の運営やケ アについて協議
給食会議	年12回	各回7人	嗜好に合わせた献立、味 付け、調理方法（食形 態）の検討
サービス担当者会議	入所 58回 短期入所31回	各回 約7人	施設サービス計画や短期 入所生活介護計画書作成 など介護方針の協議決定
運営推進会議	年6回	各回7人	施設運営の現状報告、課 題等へ対する助言等
苦情解決協議会	年4回	各回7人	各種苦情解決へ向けての 協議
苦情解決第三者委員 相談日	年12回	延12人	第三者委員が輪番制で訪 問し、苦情要望の聞き取

			り
リスクマネジメント委員会	年12回	各回 約10人	月ごとの事故分析・対策検討、虐待防止、身体拘束廃止へ向けた検討
褥瘡対策委員会	年12回	各回5人	褥瘡予防改善に向けた検討
感染症対策委員会	年6回	各回 約10人	食中毒・インフルエンザなど感染症対策について協議
ユニットケア推進委員会	年6回	各回 約5人	24時間シートの活用などユニットケア推進を協議
看取りケア準備委員会	年8回	各回 約8人	看取りケアを開始するための手順等を協議、推進
広報委員会	年3回	各回 約5人	広報発行に係る編集など
防災委員会	年4回	8人	防災マニュアルの整備や防災訓練の企画運営など
入所判定委員会	年8回	各回 約8人	入所候補者決定に係る協議など

(8) 実習の受け入れ

内 容	実施時期等	参加者数	備 考
平成30年度 社会福祉基礎実習 I	7 / 4	4人	青森県立保健大学1年生の体験実習。施設見学と入居者とのレクリエーション
義務教育教員免許志願者 に対する介護等体験	6 / 18 ~ 22 8 / 20 ~ 24	計3人	義務教育免許を取得予定の大学生による体験実習。介護現場の見学や入居者との触れ合い
平成30年度「介護労働 講習（実務者研修含む）」 介護現場実習	10 / 2 ~ 4	3人	介護職員実務者研修受講者へ介護現場の体験や入居者との触れ合い、介護過程の体験
平成30年度 介護実習Ⅱ-A	11 / 19 ~ 12 / 8	1人	青森明の星短期大学1年生の介護実習。

I 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護（ユニット型）

(1) 定 員

29人 10人×2ユニット、9人×1ユニット

(2) 概 要

常に介護が必要な方を受け入れ、利用者が可能な限り自立した日常生活を送ることができるよう、入浴や食事などの日常生活上の支援や、機能訓練、療養上の世話などを提供した。明るく家庭的な雰囲気、家庭に近い環境のなかで、地域や家族との結びつきを重視した運営を行った。利用者一人ひとりの意志及び人格を尊重し、また、入居前の生活と入居後の生活が連続したものとなるよう配慮し、各ユニットにおいて相互に社会的関係を築き、自律した日常生活を営むことができるよう支援した。

Ⅱ 短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護

(1) 定 員

10人 10人×1ユニット

※上記他、併設・空床利用型であるため、地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護における空きベッド利用可。

(2) 概 要

居宅の要介護者等に一時的に施設利用していただき、その家族の身体的、精神的負担の軽減を図るとともに、利用者に居宅での暮らしに近い日常生活を送っていただけのように、自律的生活を保障する個室、少人数の家庭的な雰囲気の中で生活できるスペースを備えたユニットケアを行い、高齢者の自律支援という視点に立ち、心身機能の維持向上等を図った。

第10 就労サポートセンターはくちょう

1 概況

事業所認知度の向上及び経営基盤の強化に職員一丸となって取り組んだところ、年度内に新規利用者3人を獲得、翌年度利用開始予定者2人を確保することが出来た。

なお、開設後に契約した方々の多くが、精神障害者保健福祉手帳所持者や高齢障害者であったため、その特性に応じた支援を心掛けた。

生産活動においては、新規請負業務受注に向け積極的に営業活動を行ったところ、除雪作業や新たな加工業務を受注することができ、目標額を上回る工賃を支給することができた。併せて、作業種目の増加に伴い、利用者の特性に応じ作業を提供する体制が整いつつある状況となった。

また、スポーツや運動の習慣化など健康増進に向け取り組んだ結果、欠席日数が減少し利用率の向上に繋がった。

地域交流の一環として、サッカー教室を開催し町内小中学生と交流したほか、近隣保育園との交流や町内の各種イベントに参加し交流を図った。

2 職員の状況

(平成31年3月31日現在)

区分	所長	副主任支援員	支援員	事務員	調理員	合計
男	1	1	1			3
女			2	1	2	5
計	1	1	3	1	2	8

3 利用者の状況

(平成31年3月31日現在)

区分	就労継続支援B型事業	備考
定員	20人	
平成30年度当初の利用者数	18人 (男14、女4)	
利用開始者数	3人 (男2、女1)	居住地：平内町(3人)
利用終了者数	2人 (男2、女0)	理由：入院(1人)、青森市への転居(1人)
平成30年度末の利用者数	19人 (男14、女5)	

平均年齢(平成30年度末)＝全体：42.5歳(男性：43.2歳、女性：40.6歳)

4 重点事項の実施状況

(1) 新規利用者の獲得及び利用率の向上

目標値(2人獲得)を上回る3人の新規利用者を獲得したが、入院や転居で契約を終了した方が2人いたため利用者数は実質1人増に留まった。

利用率については、週2～3日の利用契約者が多かったことで前年度比5.6%減の81.6%に留まったが、1日当たりの利用人員は、利用者数の増により前年度比0.3人増の15.4人となった。

(2) 利用者工賃の向上

仕入を伴う請負業務が見込を下回ったが、除雪など役務の提供を中心とする新規請負業務を7件獲得したことで、月額を支給工賃(時間給換算)は前年度比202円増の15,327円を支給することができた。

(3) 健康な身体づくりの推進

通所時のバイタルチェックの継続と、昼の休憩時間における運動(卓球、健康器具の利用)を促したほか、保健師等による健康教室を開催し健康増進及び衛生観念の醸成を図った。

(4) 地域との関係強化

前年度に引き続き、地元ボランティア団体が主催する清掃奉仕活動に参画したほか、今年度は、近隣保育園との定期的な交流活動の開始、町内の小中学生等を招いたサッカー教室を開催するなど交流の範囲を広げた。

また、土日開所日を利用して地域イベントに積極的に参加し、地域住民との交流を図った。

(5) 各種助成制度の活用

青森県共同募金会に対して、生産活動で使用する機器(ピンセッター1台)の助成申請したところ2019年度の助成として内定を受けた。

5 事業の実施状況

(1) 事業概要

① 就労継続支援B型事業

一般企業等での就労が困難な方に、就労する機会を提供するとともに、能力等の向上のために必要な訓練等を行った。

(2) 生産活動の売上状況

班 人	金 額	主な作業内容
清 掃 班	2,016,900 円	近隣福祉施設及び当事業所の一般清掃
請 負 班	3,483,799 円	漁業資材加工、タオル折り加工、除雪など
計	5,500,699 円	

(3) 工賃の支給状況

区分	支給計画	支給実績	備 考
1人当たり 平均月額	15,300 円	15,327 円	平均月額は、時間給をベースに算出(総支給額÷総作業時間数×1日の活動時間×日数) ※工賃には一時金(年2回)を含む

(4) 一般就労に向けた取組

一般就労に興味を持つ利用者2人に対し、ハローワーク青森に出向き平内町内の求人状況の説明や求人検索システムの使用方法を学習した。

(5) 余暇支援等

① 土日開所日（28回）

月	内容
4	◎浅所海岸清掃奉仕活動(21日)※平内町白鳥を守る会主催事業 ◎お花見会(30日)
5	◎事業所見学（茶居花：B型事業所）（八戸市）（12日） ◎十和田市現代美術館(19日)
6	◎七戸養護学校運動会応援(2日)
7	◎みんなでBBQ(14日) ◎ふれあいサッカー教室(28日)
8	◎椿山～大島めぐり(4日) ◎就サポさつき大運動会参加(18日) ◎県障害者スポーツ大会参加・応援(26日)
9	◎森林浴体験(1日) ◎ボウリング大会参加(9日)※アップルワーク主催事業 ◎ウォークラリー大会参戦(23日) ◎青森ワッツ公式戦応援(30日)
10	◎浅所海岸清掃奉仕活動(13日)※平内町白鳥を守る会主催事
11	◎お買い物ツアー(4日)
12	◎クリスマス大会観覧(2日)※青森市手をつなぐ育成会主催事業 ◎県立美術館(9日) ◎県営浅虫水族館(16日) ◎利用者忘年会(24日)
1	◎利用者新年会(5日) ◎ボウリング大会参加(12日)※アップルワーク主催事業 ◎お買い物ツアー(19日) ◎棟方志功記念館(26日)
2	◎ひらないの冬まつり参加(9日)
3	◎夜越山洋ランまつり見学(2日) ◎あおもり北のまほろば歴史館(16日) ◎歓送迎会(30日)

② 事業所内での余暇支援

運動不足傾向にある方に対し、健康器具を設置して運動を促した。また、利用者からの要望に応え卓球用具を充実させたほか、将棋対局にあたってはボランティアを活用し対局指導を実施するなど余暇活動を支援した。

③ その他

共同生活援助事業所スワンハイムが主催する利用者1泊旅行の実施にあたり、在宅利用者で参加希望する方の調整や旅行中の支援を行った。

(6) 食事（昼食）提供

希望者に対して、当事業所職員が調理する食事を提供した。なお、摂取カロ

リー制限食を希望する方には希望するカロリーで食事を提供した。

また、毎月開催する給食会議において、利用者から要望を伺い給食メニューを作成、なつどまり管理栄養士の監修を受け食事を提供した。

(7) 送迎体制

送迎車両3台体制で利用者の送迎を行った。

コース人	行き先
小 湊	東和、小湊
狩場沢	口広、清水川、狩場沢、東滝
夏 泊	その他（内童子）

(8) 実習生等の受入

区分	受入期間	人数	学 校 等
実 習	5月7日～5月18日（10日間）	1	青森県立七戸養護学校
体 験	8月16日	2	あおねっと青森（作業体験）
体 験	8月17日	2	あおねっと青森（作業体験）
実 習	9月3日～9月14日（10日間）	2	青森県立七戸養護学校
実 習	11月26日～12月7日（10日間）	1	青森県立七戸養護学校
実 習	1月30日～2月1日（3日間）	1	青森県立七戸養護学校

(9) 苦情解決事業及び虐待防止対応

毎月1回、第三者委員と面談する機会を設けたほか、随時相談を受けることができる体制であることを説明して利用を促した。なお、実施にあたっては、虐待防止対応規程と連動し対応した。

区分	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	計
受付件数	0	0	0	0	0
解決件数	0	0	0	0	0
繰越件数	0	0	0	0	0

(10) 健康管理

次亜塩素酸ナトリウム水溶液による施設内消毒を実施したほか、うがい薬によるうがいと手洗い及びアルコール消毒剤による手指消毒の励行を行った。

また、感染症予防及び生活習慣病予防の一環として、平内町ふれあい出前講座を活用し、保健師や管理栄養士による健康教室を開催した。

(11) 安全管理・防災対策

年2回（7月31日、1月31日）避難及び消火訓練を実施したほか、湾内の津波を想定した避難訓練を実施し、非常時の対応に備えた。

高齢利用者の増加に伴い、玄関内の段差解消を行うなど事業所内外での事故防止に努めた。

(12) 地域貢献・地域交流

① 平内町白鳥を守る会が主催する浅所海岸清掃奉仕活動（年2回）に利用者及び職員が参加した。

- ② ハクチョウのまち再生事業（平内町教育委員会）実行委員会に参画し、イベント会場としてグラウンド等を提供したほか、土日開所日としてイベントに参加し交流を図った。
- ③ 近隣保育園から招待（年3回）を受け、園児との交流を図った。
- ④ 地域生活を希望する障害者を支援することを目的に「利用者負担金等軽減制度」を設け、障害者の社会参加を促した。（2019年度の本制度利用予定者は2人）

(13) ボランティアの受入

受入回数	延べ人数	備考
11回	11人	作業支援補助、余暇活動の支援（将棋相手）

(14) 所内会議

会議名	回数	備考
就労・生産支援会議	毎月1回	
給食会議（利用者）	毎月1回	
給食スタッフ会議	毎月1回	8月より事業所会議に集約
事業所会議	毎月1回	
モニタリング調整会議	年2回	

(15) 職員研修関係

障害者虐待防止及びハラスメント防止を中心に所内研修を行ったほか、支援スキルの向上、事業所運営に必要な研修会等に職員を参加させ資質向上に努めた。

(16) 広報関係

事業所リーフレット及び広報紙（年3回発行）を作成し、関係機関及び団体等に配布した。また、ホームページにより事業所のPRに努めた。

(17) 助成事業への申請状況

申請先	内容	結果
青森県共同募金会（2019年度助成）	ピンセッター	採択（内定）